

授業科目	特別研究	時間割コード		90101	
		教育課程ナンバー		MNNRS03E01	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		演習	8(240)	必修	2通
担当教員	主指導教員・副指導教員 他				
授業目的・目標	<p>【目的】 専門科目の「看護の智探究課題演習」、「地域生活支援探究課題演習」で学修した研究プロセスおよび明らかになった研究課題に基づき、一連の研究能力を培う。</p> <p>【目標】 1) 研究倫理委員会の承認得、研究を開始することができる。 2) 研究計画に基づき、データ収集ができる。 3) 結果を考察し発表することができる(中間発表会)。 4) 中間発表会の課題を受けて、修士論文を作成することができる。 5) 論文審査会で発表することができる。 6) 論文審査会、修士論文発表会の課題を受けて、最終論文を提出することができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎
授業計画	<p>【授業概要】 修得した共通科目・総論・演習の学修を活かしながら、各領域の研究に即した自己の研究課題を設定し、一連の研究プロセスを進め、新たな智を創出する。</p> <p>【授業計画】 第1講～第16講：研究計画にもとづき研究をすすめる。 第17講～第84講：データ収集・分析をすすめる。 第85講～第86講：領域合同で中間発表会を行う。 第87講～第120講：論文審査会、修士論文発表会の課題より修士論文を再考し、提出する。</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	研究のプロセス30点、研究成果70点で総合的に評価する。				
事前事後学修	各時間毎に指示する				

授業科目	看護研究特論	時間割コード		90201	
		教育課程ナンバー		MNNCS01L01	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修・選択	1前
担当教員	◎田口 豊恵・宇野 真由美・田村 葉子・中森 美季・豊田 久美子				
授業目的・目標	<p>【目的】 社会および医療・看護の動向から看護研究を行う意義について理解し、看護実践科学に貢献するための原理 および研究の進め方について学び、研究者として新たな知見を得るとともに臨床現場に還元できる実践的な研究能力を高める。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と役割について説明できる。 2. 看護研究のプロセスと進め方について説明できる。 3. 看護研究における倫理に関する現状と課題について説明できる。 4. 看護研究におけるクリティークの意義について説明できる。 5. 文献検討・文献レビューの必要性について説明できる。 6. 研究計画書の重要性と作成方法について説明できる。 				
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。 5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 				◎
授業計画	<p>【授業概要】 社会および医療・看護の動向と看護研究の意義と役割、看護実践科学に貢献するための原理および研究の進め方について知見を深める。 また、研究疑問の絞り込み、文献検索、文献検討の方法、文献検討と文献レビュー、国内外の文献講読、クリティーク、看護研究における倫理に関する現状と課題、研究プロセスの倫理面での遵守事項を通して、研究計画の重要性と作成方法についての理解を深める。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1講: 講義計画ガイダンス、社会および医療・看護の動向と看護研究の意義と役割、看護実践科学に貢献するための原理 および研究の進め方の概要 第2講: 文献検索の方法 第3講: 研究疑問の絞り込みと看護的意義① 第4講: 文献検索の方法② 第5講: 研究疑問の絞り込みと看護的意義② 第6講: 研究論文のクリティーク① 第7講: 研究論文のクリティーク② 第8講: 国外の研究論文講読 第9講: 文献検討と文献レビュー① 第10講: 国外の研究論文講読 第11講: 文献検討と文献レビュー②発表 第12講: 研究計画書作成方法① 第13講: 研究計画書作成方法② 第14講: 看護研究における倫理に関する現状と課題: 概要 第15講: 看護研究における倫理に関する現状と課題: 本学の様式にそって 				
使用テキスト	山川みやえ、牧本清子著 研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク 最新版 日本看護協会出版会				
参考図書	講義時に紹介する				
成績評価基準	レポート100%				
事前事後学修	<p>【事前】指定されたテキストや文献を読了する</p> <p>【事後】講義資料やプレゼンテーション内容を整理する</p>				

授業科目	看護研究方法	時間割コード		90202	
		教育課程ナンバー		MNNCS01L02	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	菅田 勝也・◎滝澤 寛子・三林 聖司・河田 志帆・鯉坂 由紀				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護研究には多くの方法がある。授業では、研究デザインとしての量的研究と質的研究それぞれの特徴や方法について学ぶとともに、文献やデータのクリティークを通して、自己の研究テーマに関連した研究方法に対する理解を深めることを目標としている。</p> <p>【目標】 1)看護研究における量的方法と質的方法の特徴を対照しながら説明できる。 2)量的方法の考え方を理解し、統計データの解析ができる。 3)質的方法の考え方を理解し、各種の分析手法を説明できる。 4)自分の研究テーマにどの研究方法が適合するかを判断できる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎
授業計画	<p>【授業概要】 授業では、さまざまな先行研究を参照しながら、量的方法と質的方法のそれぞれについて理解を深めるとともに、両者の違いや対象に応じてどのように二つの方法を使い分ければよいのかについて論じる。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (菅田 勝也/2回 第2講、第3講)(河田 志帆/2回 第4講、第5講) (三林 聖司/5回 第6講～第10講)(鯉坂 由紀/2回 第12講、第13講) (滝澤 寛子/4回 第1講、第14講、第15講)</p> <p>第1講:オリエンテーション: 研究における「方法」の重要性について(滝澤) 第2講:研究の意義と研究方法の概観(菅田) 第3講:量的研究:量的研究方法のデザイン(菅田) 第4講:研究における枠組みの構築の必要性(河田) 第5講:概念枠組みの構築の方法(河田) 第6講:量的研究:母集団と標本 データの可視化(三林) 第7講:量的研究:要約統計量(三林) 第8講:量的研究:統計的検定(パラメトリック検定とノンパラメトリック検定)(三林) 第9講:量的研究:統計的検定(差の検定、分割表の検定)(三林) 第10講:量的研究:統計的検定(重回帰分析、ロジスティック回帰分析)(三林) 第11講:質的研究:質的研究の特徴と理論的基盤(滝澤) 第12講:質的研究:質的研究のプロセスとデータ収集(鯉坂) 第13講:質的研究:質的研究における半構造化インタビュー(鯉坂) 第14講:質的研究:質的研究のデータ分析の種類と特徴(滝澤) 第15講:まとめ:量的研究と質的研究(滝澤)</p>				
使用テキスト	特に定めない				
参考図書	バーズ&グローブ『看護研究入門ー評価・統合・エビデンスの生成ー』第7版 エルゼビアジャパン				
成績評価基準	課題・討議50%、期末レポート50%				
事前事後学修	<p>【事前】紹介された文献を入手し、読了する。</p> <p>【事後】提出課題の遂行。</p>				

授業科目	看護倫理特論	時間割コード		90203		
		教育課程ナンバー		MNNCS01L03		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	必修	1前	
担当教員	平 英美					
授業目的・目標	<p>【目的】 人間の生命の尊厳と権利の尊重についての基本的な考え方、倫理原則、倫理、理論について理解する。</p> <p>【学修目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の権利が尊重されねばならない歴史社会的背景を述べることができる。 2. 看護者として必要な倫理的態度について論じることができる。 3. 臨地における倫理的課題に気づくことができる。 4. 臨地における倫理的課題の解決に向けた議論ができる。 					
DPとの対応	1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				◎	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					
授業計画	<p>【講義内容】</p> <p>第1講 オリエンテーション GW「倫理とは」倫理的課題担当決め 課題レポート「看護倫理」とは(4/6)</p> <p>第2講 近代医療と医療倫理①(4/13)</p> <p>第3講 近代医療と医療倫理②(4/20)</p> <p>第4講 近代医療と医療倫理③(4/27)</p> <p>第5講 近代医療と医療倫理④(5/11)</p> <p>第6講 医療倫理の現代的課題①(5/18)</p> <p>第7講 医療倫理の現代的課題②(5/25)</p> <p>第8講 医療倫理の現代的課題③(6/1)</p> <p>第9講 医療倫理の現代的課題④(6/8)</p> <p>第10講 倫理的課題・担当決め(6/15)</p> <p>第11講 倫理的課題・資料作成(6/22)</p> <p>第12講 倫理的課題・発表①(6/29)</p> <p>第13講 倫理的課題・発表②(7/6)</p> <p>第14講 倫理的課題・発表③(7/13)</p> <p>第15講 倫理的課題・発表④(7/20)</p>					
使用テキスト	なし					
参考図書	宮坂道夫『医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ』医学書院、2011年。					
成績評価基準	発表とディスカッション…50%、最終レポート…50%					
事前事後学修	<p>【事前学修】授業内容に関連する文献検索等の準備をしておく。</p> <p>【事後学修】発表やディスカッションの結果を整理しておく。</p>					

授業科目	看護理論	時間割コード		90204		
		教育課程ナンバー		MNNCS01L04		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	◎津波古 澄子・豊田 久美子					
授業目的・目標	<p>【目的】看護理論を概観するとともに、自己の看護実践を振り返り理論との照合を通して、看護理論の実践への活用・研究への応用と開発について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護現象と看護理論の関係を考察できる。 2. 看護理論について概観できる。 3. 自己の看護実践を振り返り、理論の活用について考察できる。 4. 自己の研究への活用、応用について考察できる。 					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				◎	
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【授業概要】</p> <p>看護は実践の科学であり、看護理論は日々の細々した看護実践活動を帰納法によって開発・創出されたものである。地域包括ケアの進展に伴い、他職種連携・看看連携が必要になる中、看護の専門性の発揮がますます求められており、“看護とは何か”の省察はきわめて重要である。看護理論を概観し、自己の看護実践を振り返り、理論との照合を通して、看護理論の活用・開発、実践・研究での適用について学び、看護の本質であり様々な看護実践に通徹する看護理論について考察する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1講：ガイダンス、概説：看護の歴史と看護理論の発展</p> <p>第2講：看護の哲学：ナイチンゲールの再発見1850'—1950'</p> <p>第3講：看護諸理論の成り立ち： 看護学のメタパラダイムと「人と環境の相互作用」</p> <p>第4講：看護の哲学：現代看護の探究者たち ①ヘンダーソンの人間の基本的欲求と看護の役割</p> <p>第5講：看護実践の大理論： ②オレムのセルフケア</p> <p>第6講：看護実践の大理論：③ロイ適応看護モデル</p> <p>第7講：看護実践への活用：中範囲理論—④コルカバ ⑤ミッシェル ⑥ペンダー</p> <p>第8講：看護のケアの質を高めるための看護研究：文献にみる理論・実践・研究のつながり</p> <p>第9講：理論家の再発見と学び—プレゼンテーション(1)</p> <p>第10講：理論家の再発見と学び—プレゼンテーション(2)</p> <p>第11講：看護現象と看護理論の関係：対人関係諸理論</p> <p>第12講：看護現象と看護理論の省察1</p> <p>第13講：看護現象と看護理論の省察2</p> <p>第14講：看護現象と看護理論の省察3</p> <p>第15講：まとめ：看護実践・活動に活かす看護理論</p>					
使用テキスト	特に指定しない 適宜資料配布					
参考図書	筒井真優美編 看護理論家の業績と理論評価, 第2版, 医学書院.					
成績評価基準	討議への参加度(40%)、課題プレゼン(30%)レポート(30%)					
事前事後学修	講義時に指示する					

授業科目	看護管理論	時間割コード		90205		
		教育課程ナンバー		MNNCSS02L05		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1後集中	
担当教員	任 和子					
授業目的・目標	<p>【目的】 地域包括ケアシステムを推進するにあたって、多職種協働連携及びチーム医療における看護管理に関する諸理論や技法を修得する。看護専門職として社会の期待に応えることができるために、学びを促す組織づくりの諸理論及び技法を修得する。</p> <p>【目標】 1)看護管理の基盤となる理論及び技法について説明できる。 2)多職種連携及びチーム医療における看護の専門性について説明できる。 3)多職種連携及びチーム医療において看護の専門性を具現化する方法について説明できる。 4)学びを促す組織づくりの理論及び技法について説明できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 ◎					
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎					
授業計画	<p>【授業概要】 地域包括ケアシステムが推進されている中で、看護専門職として社会の期待に応えるために必要な看護管理に関する知識や理論および互いに学び成長できる組織づくりの具体的な技法について学修する。</p> <p>【授業計画】 第1講：ガイダンス 第2講：看護管理の定義と歴史の変遷 第3講：組織とは・組織変革・開発 第4講：看護専門職の自律性と責務 第5講：タスク・シフトと人的資源活用 第6講：ケア移行と多職種協働 第7講：看護サービスの質管理①看護サービスの基本概念 第8講：看護サービスの質管理②看護の質改善 第9講：看護サービスの質管理③質保証と評価 第10講：看護管理者に必要なリーダーシップ 第11講：学びを促す組織づくり①専門職業人としてのキャリア開発看護政策と看護管理 第12講：学びを促す組織づくり②動機づけ理論 第13講：看護管理と看護政策① 第14講：看護管理と看護政策② 第15講：看護管理における自己の課題の明確化</p>					
使用テキスト	<p>ダウンロード ・看護業務基準 https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/gyomu/kijyun.pdf ・看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド https://www.nurse.or.jp/nursing/kango_seido/guideline/index.html ・看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドライン及び活用ガイド https://www.nurse.or.jp/nursing/shift_n_share/guideline/index.html</p>					
参考図書	みんなの看護管理(南江堂)、看護組織論(ミネルヴァ書房)、シリーズ生命倫理学第14巻看護倫理(丸善)、生命倫理と医療倫理第4版(金芳堂)、看護マネジメントの教科書(照林社)					
成績評価基準	出席とディスカッションへの参加度40% 課題の実施と提出：発表20% レポート40%					
事前事後学修	<p>・ダウンロードしたテキストを読んでおく。 ・レポート課題は、「看護管理における現代の課題」を大きなテーマとして自分の職務やキャリアと関連させながら論じることを予定している。講義前後で、「看護管理における現代の課題」を自分の経験というフィルターを用いて振り返ること。この課題について各自のプレゼンテーションも予定している。</p>					

授業科目	看護政策論	時間割コード		90206	
		教育課程ナンバー		MNNCS02L06	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後集中
担当教員	◎滝澤 寛子・勝又 浜子・波多野 浩道・河田 志帆・栗津 佳子				
授業目的・目標	<p>【目的】 看護政策を提言できる看護職としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)国・都道府県・市町村の看護政策と策定過程を説明できる。 2)看護政策の課題を挙げることができる。 3)都道府県の健康・医療・福祉政策の策定過程を説明し、看護職の役割を述べるができる。 4)保健・医療・福祉政策の新たな政策課題に対して解決策を述べるができる。 5)解決策を政策として論じることができる。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。 ◎</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				
授業計画	<p>【授業概要】 1) 国、都道府県、市町村における保健・医療・福祉ニーズに対応する看護政策の在り方とその策定過程を学び、看護の課題を探究する。 2) 保健医療福祉政策の決定過程に関わってきた看護職の役割をを理解し、保健医療福祉政策の課題解決方法や政策決定過程を探究する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 第1講：看護政策を学ぶ意義 第2講：グループディスカッション＜自組織における看護問題＞ 第3講：政策化・施策化のモデルと理論 第4講：我が国における看護制度と看護職に関する法律(勝又) 第5講：保健師助産師看護師法の変遷とその背景(勝又) 第6講：看護問題解決のための政策化・施策化の具体的方法① 第7講：看護問題解決のための政策化・施策化の具体的方法② 第8講：都道府県医療計画策定のプロセスと内容 第9講：地域医療構想と医療政策の方向性 第10講：地域の保健・医療・福祉政策の課題と政策化 第11講：グループディスカッション＜テーマ:地域の保健医療福祉の各計画からみる看護職の役割＞ 第12講：我が国の看護政策の決定過程(勝又) 第13講：医療専門職の教育制度と看護師基礎教育制度の課題(勝又) 第14講：日本看護協会と看護政策（保健・医療・福祉政策の決定に看護職が果たしてきた役割）(勝又) 第15講：看護政策論の総括</p>				
使用テキスト	看護法令要覧(日本看護協会出版会) 最新版、講師作成資料				
参考図書	適宜指定する				
成績評価基準	レポート80% ディスカッション参加20%				
事前事後学修	<p>1) 居住している都道府県のホームページから、「看護に関する独自政策及び最新の看護職員需給計画」をダウンロードし、自分の考え方をまとめる。 2) 公益社団法人日本看護協会ホームページから「看護基礎教育4年制」をダウンロードして、関連する情報を必ず読み込み自分の考え方をまとめる。</p>				

授業科目	地域包括ケアシステム論	時間割コード		90207	
		教育課程ナンバー		MNNCS01L07	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	◎井上 深幸・磯邊 厚子・川嶋 元子				
授業目的・目標	<p>【目的】 地域包括ケアシステム構築と推進の中心的役割を担うことができる看護職としての能力を育成する。</p> <p>【目標】 1)我が国の保健医療福祉政策の現状を理解できる。 2)課題解決のための地域包括ケアシステムについて探求できる。 3)地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について考究できる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				◎
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎
授業計画	<p>【授業概要】(オムニバス方式/全15回)</p> <p>1) 地域包括ケアシステムの主要概念を理解する。 2) 地域包括ケアシステムの現状と課題について探求する。 3) 地域包括ケアシステムにおける看護について考究する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1講: ケアシステムのパラダイムシフト 第2講: 地域包括ケアシステムにおけるcareの概念 第3講: 母子を支える地域包括ケアシステムの現状と課題 第4講: 成人を支える地域包括ケアシステムの現状と課題 第5講: 高齢者を支える地域包括ケアシステムの現状と課題 第6講: 地域包括ケアシステムを推進する入退院支援 第7講: 地域包括ケアシステムにおける外来の現状と課題 第8講: 地域包括ケアシステム時代の看護と移行理論 第9講: シームレスケアのための看護理論と「看護必要度」の活用 第10講: ケア移行～シームレスケアの実際 第11講: 地域包括ケア時代の健康教育 第12講: 地域包括ケアにおける難病(ALS)の在宅看護 第13講: 地域包括ケアにおける在宅ターミナルの看護 第14講: 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割 第15講: 地域包括ケアの実践</p>				
使用テキスト	特に指定しない。				
参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	レポート70% ディスカッション30%				
事前事後学修	授業内で提示する。				

授業科目	医療コミュニケーション特論	時間割コード		90209	
		教育課程ナンバー		MNNCS02L08	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	◎平 英美・出石 万希子				
授業目的・目標	<p>【目的】 近年、臨床において医療コミュニケーションの重要性が認識されるようになった背景には、患者の権利を尊重した患者中心の医療の進展がある。とくに看護においては、コミュニケーション自体が看護技術の一部と見なされ関心が高まっている。本授業は、このような医療者-患者関係の変化に対応しつつ、看護師が臨床現場において患者との良好なコミュニケーションを遂行するためにはどのようにすればよいのかを理論的かつ実践的に探究することを目的としている。</p> <p>【目標】 1)医療においてコミュニケーションが重視されるようになった歴史社会的背景についての認識と理解を深める。 2)コミュニケーションの分析ツールであるRIASと会話分析を使いこなすことができる。 3)他のコミュニケーションと比較した看護コミュニケーションの特徴について自分の考えを述べるができる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				◎
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 まず、わが国における患者中心の医療の展開について、とりわけその中心概念であるインフォームドコンセントの実態を、看護記録開示やがん告知と看護師の関わりなどの事例を通して具体的に検討する。次に、コミュニケーションを分析する代表的な理論・分析方法に習熟するために、量的方法ではRIASを、質的方法では会話分析を主に取りあげる。本授業では、SPの利用や簡単なフィールドリサーチを行うことで院生自身が患者とのコミュニケーションを自己分析するワークを取り入れている。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (平 英美/10回 第1講、第2講 第8～第12講、第13講、第15講) (出石 万希子/5回 第3講～第7講、第13講、第15講) 第1講：オリエンテーション：医療におけるコミュニケーションの研究の重要性：背景としての患者中心の医療の進展について 第2講：コミュニケーションデータ作成方法とトランスクリプトの方法 第3講：RIASを用いた医療コミュニケーションの量的分析について：RIASの特徴とコーディングの考え方 第4講：ワーク①：データをコーディングしてみる 第5講：ワーク②：コーディング後の処理の仕方について 統計の利用法 第6講：RIASから見た看護コミュニケーションの特徴： 医師のコミュニケーションあるいは医療以外のコミュニケーションと比較して 第7講：医療コミュニケーションの会話分析 第8講：コミュニケーション研究の理論的動向：談話分析(Discourse Analysis) と会話分析(Conversation Analysis) の違いについて 第9講：会話分析の基本概念 第10講：ワーク③：会話分析を試みる その1 第11講：ワーク④：会話分析を試みる その2 第12講：ワーク⑤：会話分析を試みる その3 第13講：模擬患者を使ったロールプレイ 第14講：ワーク⑥：各自のデータ解析の指導 第15講：まとめ プレゼンテーションー各自の自己分析を発表する。</p>				
使用テキスト	なし				
参考図書	<p>① 阿部恵子・石川ひろの・野呂幾久子『医療コミュニケーション分析の方法』三恵社 ② 石崎雅人・野呂幾久子監修『これからの医療コミュニケーションに向けて』篠原出版新社 ③ その他、適宜紹介する。</p>				
成績評価基準	提出物および平常点50% レポート試験50%				
事前事後学修	<p>【事前】事前にデータ整え、分析する。 【事後】レポート等の提出物作製の際に、医療コミュニケーションについての文献を読む。</p>				

授業科目	国際・災害看護特論	時間割コード		90210	
		教育課程ナンバー		MNNCS02L09	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	◎磯邊 厚子・田口 豊恵・小原 真理子				
授業目的 ・ 目標	<p>【授業目的】国境を越えた人々の健康危機、感染症をはじめ紛争、難民、災害等による人々の健康課題は後を絶たない。あらゆる地域、あらゆる健康段階にある個人・集団に対してグローバルヘルスの観点から看護の果たすべき役割を学ぶ。昨今、頻発する災害に対し、災害の概念を理解したうえで、国内外の災害現場での看護の役割と機能について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.世界規模の健康課題や人々の健康に影響を与える要因を説明できる。 2.様々な国、地域、文化的背景を持つ人々の健康へのアプローチを説明できる。 3.災害サイクル、災害の種類、活動現場、被災者の特性を説明できる。 4.避難生活環境と災害関連死との関係、その対策について説明できる。 5.災害サイクル各期における看護職が果たす役割と意義について説明できる。 				
DPとの 対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				○
授業計画	<p>【授業概要】 グローバルな課題～国際交流、国際協力、EPAナースの受入れ、在日外国人医療など、幅広く国際看護を育む議論を展開する。災害看護の現場では、災害ライフサイクルに応じた看護プロセスと実践例を具体的に学び、考察、展望する。</p> <p>【授業計画】 (磯邊 厚子/6回) 第1講:世界の人々の健康課題:健康格差と不平等 (UNDP:人間開発指標) 第2講:人々の健康に影響を与える要因(歴史、政策・経済、社会、文化、教育等)と国際機関 第3講:看護の活動の場と対象:公衆衛生、母子保健、看護教育、在日外国人医療など 第4講:国際協力における多様なアプローチ(プライマリ・ヘルスケア～ケイパビリティアプローチ) 第5講:看護活動の留意点:3A「あせらず、あなどらず、あきらめず」 第6講:国際看護研究:海外学術調査のプロセス (田口 豊恵/3回) 第7講:災害の種類と健康被害に応じた看護(クラッシュ症候群、DVT、低体温症、災害関連死) 第8講:災害時のトリアージと応急処置:CSCA3Ts、災害医療対応の整備(DMAT、DPAT、DHEAT)、マシガザリングとNBC災害への対応 第9講:災害急性期・亜急性期におけるこころのケア:事例検討 (小原 真理子/6回) 第10講:近年の災害の現状と課題 第11講:災害の種類やその特徴、人々の生命・健康への影響、地域社会への影響 第12講:災害サイクルと被災者特性(要配慮者)、活動現場の特性、多職種連携 第13講:災害中長期の看護活動:避難生活、生活再建、復興の概念 第14講:災害静穏期の看護活動:地域防災・減災と人材育成、病院危機管理・BCP 第15講:災害看護活動と倫理、災害関連法規、災害看護研究に用いられる理論</p>				
使用 テキスト	テキストは使用せず、講義毎に適宜資料を配布する。				
参考図書	「災害看護学・国際看護学」医学書院、他適宜紹介する。				
成績評価 基準	レポート70%、事例検討:担当教員(磯邊・田口・小原 各々10%)30%				
事前事後 学修	UNDP人間開発報告書 2021-2022(日本語版)を読んでおく。事後は授業進行に沿って、適宜課題を行う。災害発生、防災・減災の現場についてネットや新聞等で情報をとり、課題や対応等を理解する。				

授業科目	看護の智探究総論	時間割コード		90301	
		教育課程ナンバー		MNNSS01L01	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	必修	1前
担当教員	◎吉田 えり・田口 豊恵・宇野 真由美・田村 葉子・鯉坂 由紀・中森 美季				
授業目的 目標	<p>【目的】 看護の智探究領域において、智の抽出、形式智としての表現、看護実践への適用について、クリティカルケアの智、成熟期看護の智、看護キャリア支援の智、エンドオブライフケアの智、看護リフレクションの智、がん患者・家族看護の智から考究する。</p> <p>【目標】 1. 講義を通して自己の臨床場面を省察できる。 2. 講義を通して智の探究方法について考察できる。</p>				
DPとの 対応	1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎			
	2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○			
	3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○			
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。	○			
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 様々な看護現象には、どのような智が潜んでいるのか、その智はどのような方法で抽出して看護の形式智として表現し、看護実践に生かしていくのかについて考究する。さらに、それぞれの臨床経験にもとづいて意見交換をする中で、自己の臨床場面を省察し、看護の智探究領域の幅広い視点から自己の問題意識を整理し、明確化していく機会とする。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>第1講: ガイダンス、看護実践に潜む智について(吉田) 第2講: 臨床場面における省察について(吉田) 第3講: 看護実践に活かす智の探究方法の考察について(吉田) 第4講: クリティカルな状態にある患者、家族の反応に対する臨床場面の省察(田口) 第5講: クリティカルな状態にある患者、家族の反応に対する智の探究方法の考察(田口) 第6講: 成熟期にある患者と家族に対する臨床場面の省察(吉田) 第7講: 成熟期にある患者と家族に対する看護の智の探求方法の考察(吉田) 第8講: 看護キャリア支援に対する臨床場面の省察(宇野) 第9講: 看護キャリア支援に対する智の探究方法の考察(宇野) 第10講: エンドオブライフにある患者・家族に対する臨床場面の省察(田村) 第11講: エンドオブライフにある患者・家族に対する看護の智の探求方法の考察(田村) 第12講: 看護におけるリフレクションの意味(鯉坂) 第13講: 患者・家族に対する看護リフレクションの智の探究の考察(鯉坂) 第14講: がん患者・家族に対する臨床場面の省察(中森) 第15講: がん患者・家族に対する看護の智の探求方法の考察(中森)</p>				
使用 テキスト	なし				
参考図書	講義時に紹介する				
成績評価 基準	各講義ディスカッション:50% レポート課題:50%				
事前事後 学修	講義内に指示する				

授業科目	看護マネジメント特論	時間割コード		90302	
		教育課程ナンバー		MNSS02L02	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	菅田 勝也				
授業目的・目標	<p>【目的】 医療の社会経済的枠組みを定める社会保障制度に関する知識を深めるとともに、看護サービスの質を保証する看護マネジメントの方法を学修する。</p> <p>【目標】 1) 人口構造と疾病構造の変化について説明できる。 2) 社会保障の給付と負担及び社会保障制度改革について説明できる。 3) 看護マネジメントに係る種々の方法や技術とその活用について説明できる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 看護マネジメントの背景にある人口構造や疾病構造の変化、及び社会保障制度とその改革の動向、並びに看護マネジメントに係る種々の方法や技術とその活用について学修する。</p> <p>【授業計画】 第1講：人口構造と疾病構造の推移 第2講：社会保障の構造と機能 第3講：国民医療費の動向 第4講：看護に係る診療報酬 第5講：医療提供体制の改革 第6講：サービス・マネジメントの概念と方法 第7講：クオリティ・マネジメントの概念と方法 第8講：アウトカム・マネジメントの概念と方法 第9講：セーフティ・マネジメントの概念と方法 第10講：病院経営マネジメントの概念と方法 第11講：病院看護部の災害に対する備え 第12講：病院看護部の災害時の対応 第13講：医療経済評価 第14講：情報通信技術 第15講：看護管理研究</p>				
使用テキスト	特に指定しない				
参考図書	<p>Sullivan,E.: Effective Leadership and Management in Nursing (9th ed.). Prentice Hall.(看護管理について網羅的に編集されているので、特に推奨する) 菅田勝也(編):看護管理に活かすベンチマーキングー看護サービスの質改善のために。東京、中山書店。 永井良三監修、数間恵子、菅田勝也、小出大介(編):看護と情報科学。東京、杏林図書。</p>				
成績評価基準	発表40% 討論30% レポート30%				
事前事後学修	講義時に指示する				

授業科目	看護教育学特論	時間割コード		90303		
		教育課程ナンバー		MNSS01L03		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	津波古 澄子					
授業目的・目標	<p>【目的】 看護基礎教育・継続教育に必要な看護教育学の理論や概念、方法論について学修する。また、看護職者・教育者として質の高い看護教育を実現するための具体的な教育方法を探求する。</p> <p>【目標】 1)看護教育学の基盤となる理論や概念、方法論について述べるができる。 2)看護基礎教育、継続教育に関する現状と課題を明確化できる。 3)看護教育の課題解決に向けて、具体的な教育方法(カリキュラム作成、教育実践計画など)を提示できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎				
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○				
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○				
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。	○				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					
授業計画	<p>【授業概要】 看護のケアの質向上のための看護教育の現状と課題を討議し、国内外の文献をとおして課題の解決に向けた看護基礎教育および継続教育を多角的視点で考究する。また、看護教育の課題を踏まえて、未来(2040年)を見据えた教育方法を提案できる。</p> <p>【授業計画】 第1講: ガイダンス 看護学教育の基盤―「教育基本法: 未来を切り開く教育」(法律第120号) 第2講: 学ぶとは、教えるとは―学習・教授の基本条件 第3講: 看護学教育の歴史・発展 第4講: 看護教育・継続教育の諸理論と方法 第5講: 看護教育の現状と課題―国内外の文献から学ぶ(1) 第6講: 国内外の文献から学ぶ(2) 第7講: 看護のケアの質を高める臨床教育 第8講: 臨床判断の基盤となるクリティカルシンキングと臨床推論を育む教育(1) 第9講: クリティカルシンキングと臨床推論を育む教育(2) 第10講: コンセプトに基づく学習とコンピテンシー育成 第11講: コンセプト-コンピテンシーの評価 第12講: 各自の看護教育課題と課題解決の方向性(1) 例) 授業案作成、アクティブラーニングと評価 第13講: 各自の看護教育課題と課題解決の方向性(2) 第14講: 各自の看護教育課題と課題解決の方向性(3) 第15講: まとめ: 看護教育の未来を拓くための提案</p>					
使用テキスト	(グレッグ美鈴・池西悦子(2018) 看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う, 改訂第2版, 南江堂)					
参考図書	<p>・勝野・窪田・今野・中嶋・野村(2023) 教育小六法, 学陽書房。 ・Billings, D. M. & Halstead, J. A. (2016) / 佐々木・奥宮・小林監訳 (2021) 看護を教授すること: 大学教員のためのガイド, 原著6版, 医歯薬出版。 ・P.J. パーマー, 吉永契一郎訳 (2000) 大学教師の自己改善: 教える勇気, 玉川出版 ・H・リン エリクソン, ロイス・A・ラニン&レイチェル・フレンチ / 遠藤みゆき, ペアード真理子訳(2020) 思考する教室をつくる: 概念型カリキュラムの理論と実践, 北大路出版</p>					
成績評価基準	討議への参加度(40%)、課題プレゼン(30%)レポート(30%)					
事前事後学修	講義時に指示する					

授業科目	クリティカルケア特論	時間割コード		90304	
		教育課程ナンバー		MNSS01L04	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2 (30)	選択	1前
担当教員	田口 豊恵				
授業目的・目標	<p>【目的】 重篤な疾患や外傷、生体侵襲の大きい手術などによって生命危機状態にある重症患者とその家族に対し、生命の維持、生命への寄り添いと尊厳を護り、強みを引き出すための智を探究する。クリティカルケア看護の基盤となる概念、理論、睡眠学や時間生物学に基づくサーカディアンリズムの調整、生体侵襲学、危機理論を通して全人的かつ学際的な視点から学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命維持に直接的なかわりをもつ専門知識について説明できる。 2. 患者の生死にかかわる問題に対応できる高い倫理観を持つ必要性について説明できる。 3. 事例を通して、生命危機状態にある患者や家族への看護について考究できる。 4. クリティカルな状況から命と生活をつなぐシームレスな看護について考究できる。 				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 生命危機状態にある重症患者とその家族に対し、生命の維持、生命への寄り添いと尊厳を護り、強みを引き出すための智について事例を通して考究する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1講：講義計画ガイダンス クリティカルケア看護の理解 第2講：Synergy model(理論背景・コンピテンシー・クリティカルケア看護における活用) 第3講：クリティカルケアにおけるチーム医療とコミュニケーション 第4講：クリティカルな状態にある患者が抱える倫理的課題 第5講：クリティカルな状態にある患者の家族への代理意思決定支援 第6講：危機理論(危機に関する歴史的変遷・危機モデル・危機介入) 第7講：クリティカルな状態にある患者と家族への看護の検討① 第8講：クリティカルな状態にある患者と家族への看護の検討② 第9講：クリティカルケアにおける鎮静・鎮痛の必要性とその代償 第10講：クリティカルケアにおける睡眠学・時間生物学の位置づけ 第11講：看護における時間生物学との融合・時間生物学に基づいたサーカディアンリズムの研究① 第12講：看護における睡眠学との融合・睡眠学に基づいたサーカディアンリズムの研究② 第13講：地域包括ケアシステムにおけるクリティカルケア看護の役割と課題 第14講：クリティカルな状況から命と生活をつなぐシームレスな看護 第15講：クリティカルケアにおける看護研究</p>				
使用テキスト	特に使用しない				
参考図書	講義時に紹介する				
成績評価基準	プレゼンテーション40% レポート課題60%				
事前事後学修	講義時に指示する				

授業科目	臨床ナラティブ特論	時間割コード		90305	
		教育課程ナンバー		MNSS02L05	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	中川 晶				
授業目的・目標	ナラティブ・アプローチとはどのような考え方があるのか概観できるようになること。 教育現場や医療現場でナラティブ・アプローチを使えるようになること。 ナラティブの技法として、ナラティブ・クエショニングが使えるようになること。				
DPとの対応	1) 智をいつくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。			◎	
	2) 人をいつくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。			○	
	3) 命をいつくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。			○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。			○	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	各回のテーマ 第1回 : ナラティブとは何か 第2回 : ナラティブと帰属理論 第3回 : ナラティブと社会構築主義 第4回 : ストレスの背景を考える 第5回 : ストレスの正体1～精神医学の視座から～ 第6回 : ストレスの正体2～心理学の視座から～ 第7回 : ストレスの正体3～文化人類学の視座から～ 第8回 : ストレスの正体4～進化生物学の視座から～ 第9回 : ナラティブと人格理論 第10回 : ナラティブと発達障害 第11回 : ナラティブとうつ病 第12回 : ナラティブと医療 第13回 : ナラティブと医学 第14回 : 病いの語り 第15回 : 看護に生かすナラティブ・アプローチ				
使用テキスト	なし				
参考図書	講義と演習で学ぶ保健医療行動科学(日本保健医療行動科学会)				
成績評価基準	出席とレポート				
事前事後学修	ナラティブ関係の本を読む。				

授業科目	エンドオブライフケア特論	時間割コード		90307	
		教育課程ナンバー		MNSS01L06	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	田村 葉子				
授業目的・目標	<p>【目的】 エンドオブライフ(以下 End of life; EOL)ケア、EOLケアについての歴史的変遷および基盤となる理論や概念について学修する。また、EOLケアが患者、家族や看護師に及ぶ影響や課題について考究し、高度実践看護師としてのケアのあり方について探究する。</p> <p>【目標】 1) EOLの概念、歴史について説明できる。 2) クリティカルケア領域におけるEOLを取り巻く状況の変化や現在の課題について説明することができる。 3) クリティカルケア領域におけるEOLケアが必要な患者の身体症状についてアセスメント及び症状マネジメントに関する知識を習得できる。 4) クリティカルケア領域におけるEOLケアでの倫理的問題について述べるができる。 5) クリティカルケア領域におけるEOLケアを提供する看護師に求められる基本的態度について理解できる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				◎
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				○
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 高齢多死社会の中で、まさに今、人生を終えようとする患者とその家族に必要なEOLケアについて、EOLケアの基盤となる理論や概念を講義、演習を通して学修する。さらに、EOLケアについての先行研究を基に、現在の課題について探究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：ガイダンス EOLとは 第2講：EOLケアの歴史的変遷 (第3～15講については、クリティカルケア領域におけるEOLケアについて学修する) 第3講：EOLケアの基盤となる理論や概念；危機理論 等 第4講：EOLを取り巻く状況や課題について；DNAR ACP 代理意思決定支援 等 第5講：EOLにある患者の疼痛マネジメント 第6講：EOLにある患者の症状マネジメント 第7講：EOLケアにおける倫理的問題 第8講：EOLケアに関連する研究：文献検討① 第9講：EOLにある患者・家族とのコミュニケーション 第10講：EOLケアに関連する研究：文献検討② 第11講：EOLにおける患者・家族の悲嘆 第12講：EOLケアにおける看護師の苦悩；モラルディストレス 第13講：EOLケアにおける看取り 第14講：EOLケアに関連する研究：文献検討③ 第15講：EOLケアを提供する看護師に求められる態度、まとめ</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	事前事後学修・プレゼン(50%)、レポート(50%)				
事前事後学修	講義内で指示する				

授業科目	看護リフレクション特論	時間割コード		90308		
		教育課程ナンバー		MNNSS01L07		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	鯨坂 由紀					
授業目的 目標	<p>授業目的: 自身の看護実践・看護教育実践を振り返り意味づけするリフレクションは、看護専門職者自身の成長と質の高い看護・教育実践につながる思考過程である。また、看護学生が看護の考え方を深め、実践能力を向上させていくためには、看護師・看護教員が学生の看護実践場面を教材化する力を向上させることが必要であるとされている。本授業は、看護におけるリフレクションと教材化について、理論的・実践的に探究することを目的とする。</p> <p>目標: 1)リフレクションに関連する理論や概念を説明できる 2)看護のリフレクションに関する研究動向を探究できる 3)自身の看護実践あるいは看護教育実践をリフレクションし、今後の看護を考究できる 4)教材化について学修し、学生の看護実践場面を教材化する力を培う</p>					
DPとの 対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎	
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				◎	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					
授業計画	<p>【授業概要】 リフレクションの歴史的変遷と関連する理論や概念について学修する。また、看護におけるリフレクションの先行研究を検討する。そして、理論や文献を活用して、それぞれの看護実践・看護教育実践をリフレクションし、プレゼンテーション・ディスカッションを通して今後の看護について考究する。さらに、教材化について学修し、学生の看護実践場面(事例)を教材化し、学生自身が経験の意味を理解できるようリフレクションを促す支援方法を考案・実施しディスカッションする。</p> <p>【授業計画】 第1講:ガイダンス 第2～3講:リフレクションの歴史的変遷、関連する理論や概念の検討 第4～6講:看護・看護教育実践のリフレクションに関する文献検討 第7～8講:自身が考えるリフレクションの定義 第9～11講:自身の看護実践・看護教育実践について理論・文献を用いてリフレクションし考察する 第12～13講:教材化に関する文献検討 第14～15講:学生の看護実践場面(事例)を教材化し、学生自身が経験の意味を理解できるようリフレクションを促す方法を考案・実施しディスカッションする</p>					
使用 テキスト	特に使用しない					
参考図書	講義時に紹介する					
成績評価 基準	課題・討議・プレゼンテーション50%、レポート50%					
事前事後 学修	講義時にお知らせします					

授業科目	がん患者・家族看護特論	時間割コード		90309	
		教育課程ナンバー		MNSS02L08	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	中森 美季				
授業目的・目標	<p>【目的】 がん患者およびその家族に提供される医療や看護についての歴史的変遷および基盤となる概念、理論について学修する。また、がんの療養プロセスにおける患者およびその家族への様々な影響や直面する課題について、全人的な視点で捉え考究し、がん患者およびその家族へのケアのあり方について探求する。</p> <p>【目標】 1)がん医療と看護の歴史的変遷について説明できる 2)がん療養プロセスに応じたがん患者とその家族を取り巻く状況や現状の課題について説明できる。 3)がん療養プロセスに応じたがん患者とその家族に対する看護に関連する理論の概念について説明できる。 4)がん医療と看護における倫理的問題について述べる事ができる。 5)事例や文献検討を通して、がん患者とその家族に対する看護について考究できる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				○
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 がんと診断されてから看とりの時期、さらには、看とり後も含め、がん患者およびその家族が体験する様々な状況や諸問題に対する看護について、講義や演習、事例を通して探求する。</p> <p>【授業計画】 第1講：ガイダンス がん看護とは 第2講：日本におけるがん医療と看護の歴史的変遷 第3講：がん療養プロセスと看護：がんサバイバーシップ 第4講：がん患者およびその家族の特徴と全人的理解①：急性期の生存の期間 第5講：急性期の生存の期間にあるがん患者およびその家族に関する文献検討 第6講：がんの診断から治療期における意思決定支援 第7講：がん患者およびその家族の特徴と全人的理解②：延長された生存の期間・長期的に安定した生存の期間 第8講：延長された生存の期間・長期的に安定した生存の期間にあるがん患者およびその家族に関する文献検討 第9講：がん患者およびその家族の特徴と全人的理解③：終末期の生存の時期 第10講：終末期の生存期にあるがん患者およびその家族に関する文献検討 第11講：がん患者とその家族に関わる倫理的問題 第12講：がん患者とその家族に関わる諸理論①：オレム看護論 第13講：がん患者とその家族に関わる諸理論②：症状マネジメントモデル 第14講：がん患者とその家族に関する諸理論を活用した事例検討・文献検討 第15講：まとめ</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	事前事後学修・プレゼンテーション(50%)、レポート(50%)				
事前事後学修	講義時に指示する				

授業科目	成熟期看護特論	時間割コード		90310	
		教育課程ナンバー		MNNS02L09	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	吉田 えり				
授業目的・目標	<p>【目的】 成熟期にある患者と家族の健康生活の特性を理解するとともに、両者が抱える療養上の課題について理論や概念を用いて理解し、諸理論を活用した看護援助について探究する。</p> <p>【目標】 1)成熟期にある患者と家族の健康生活の特性、両者が抱える療養上の課題を理解する。 2)成熟期にある患者と家族の理解や看護を考究するために必要な理論や概念について理解する。 3)諸理論や概念の活用について、自身の実践事例と結び付け検討する。 4)成熟期にある患者と家族が、療養行動の維持・継続するために必要なセルフマネジメントについて考究する。</p>				
DPとの対応	<p>1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				○
授業計画	<p>【授業概要】 文献や先行研究を読み解き、プレゼンテーション、ディスカッションを通して主体的に学びを深める。実践事例を通して成熟期にある患者と家族の健康生活の特性、療養上の課題を理解し、諸理論を活用した看護援助について探究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：成熟期にある患者と家族の健康生活の特性 第2講：成熟期にある患者と家族の心理社会的な特徴 第3講：事例の振り返りと考察 第4講：成熟期にある患者と家族の理解①：「病みの軌跡理論」を通して、患者と家族の健康生活、両者の療養上の課題、セルフマネジメントについて理解する 第5講：成熟期にある患者と家族の理解②：「病みの軌跡理論」の実践への活用について考究する 第6講：成熟期にある患者と家族を理解するための諸理論①：自己効力感 第7講：成熟期にある患者と家族を理解するための諸理論②：ストレス対処 第8講：成熟期にある患者と家族を理解するための諸理論③：セルフマネジメント 第9-11講：実践事例の検討① ・理論を用いた実践事例の考察・課題の明確化 ・看護援助のディスカッション 第12-14講：実践事例の検討② ・理論を用いた実践事例の考察・課題の明確化 ・看護援助のディスカッション 第15講：成熟期にある患者と家族への看護援助のまとめ</p>				
使用テキスト	特になし				
参考図書	適宜、配布および紹介する				
成績評価基準	事前事後学修・ディスカッション・プレゼンテーション：50%レポート課題：50%				
事前事後学修	<p>【事前】シラバスに示した各講で提示する資料を読み込み、課題に取り組み授業に参加してください。</p> <p>【事後】授業で明らかになった課題に取り組み、説明できるようしておいてください。</p>				

授業科目	看護キャリア支援特論	時間割コード		90311		
		教育課程ナンバー		MNSS02L34		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1後	
担当教員	宇野 真由美					
授業目的 ・ 目標	<p>【目的】 看護職のキャリアを形成する概念、理論についての基礎的知識を修得し、働くことや役割を遂行することの質をとらえ、キャリア支援の具体的方法の探究する。</p> <p>【目標】 1)看護職のキャリアを形成する概念、理論を説明できる。 2)看護職のキャリアとキャリア支援に関する知見を説明できる。 3)看護職のキャリア支援の質について考究できる。 4)看護職のキャリア支援の具体的方法を考究できる。</p>					
DPとの 対応	1) 智をいつくむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎	
	2) 人をいつくむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいつくむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					
授業計画	<p>【授業概要】 キャリア、キャリアの形成、キャリア形成の支援方法について理論を用い、その概念枠組みが明確化できるようにする。関連する知見を明らかにし、具体的な方策を検討しディスカッションを行う。</p> <p>【授業計画】 第1講: ガイダンス、キャリアとは 第2講: キャリアを形成する概念 第3講: キャリア開発およびキャリア支援理論 第4講: キャリアダイナミクス 第5講: 「職場」と「共に働くこと」の現象 第6講: キャリア支援と支援関係 第7講: キャリアカウンセリング 第8講: 働くことの質、支援に必要な思考方法 第9講: キャリア支援に関する文献検討 第10講: キャリア支援者と支援関係に関する文献検討 第11講: キャリア支援に関する知見のプレゼン、ディスカッション 第12～13講: キャリア支援の具体的方法の検討 第14～15講: キャリア支援の具体的方法に関するプレゼン、ディスカッション</p>					
使用 テキスト	特に使用しない					
参考図書	講義時に紹介する					
成績評価 基準	課題・討議・プレゼンテーション50%、レポート50%					
事前事後 学修	講義時にお知らせします					

授業科目	看護の智探究課題演習	時間割コード		90306		
		教育課程ナンバー		MNSS02E10		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		演習	2(60)	必修・選択	1後	
担当教員	主指導教員・副指導教員 他					
授業目的・目標	<p>【目的】 臨床における看護の智探究に関する課題と展望を明確にするとともに、研究プロセスの演習を通して、基本的な研究展開方法を修得し研究計画を立案する能力を養う。</p> <p>【目標】 1) 演習を通して、多角的な意見や助言、指導を得て、自己の研究疑問から研究課題を明確にし、研究計画の立案ができる。 2) ディスカッションおよび発表会で得られた意見、助言、指導を自身の研究に有効に活用できる。 3) 根拠に基づく実施可能な研究計画を立案できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎	
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。				○	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					
授業計画	<p>【授業概要】 看護の智探究領域専攻の学生を支援する領域別演習であり、一部、地域生活支援探究領域の担当教員および専攻学生との共同による対話、発表、討論形式で進める。 学生の問題意識に基づき、国内外の論文のクリティーク、研究疑問の絞込み、研究計画を立案する基礎能力を養うことを目的とする。 (全30回)</p> <p>【授業計画】 第 1～ 6講：課題設定、文献レビュー、研究計画の検討 第 7～ 9講：研究課題発表会 第10～14講：研究計画の検討 第15～17講：研究計画中間発表会 第18～25講：研究計画書作成 第26～28講：研究計画発表会 第29～30講：研究計画のブラッシュアップ</p>					
使用テキスト	特に定めない					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価基準	発表資料・プレゼンテーション50%(研究課題発表15%、研究計画中間発表15%、研究計画発表20%)、ディスカッション30%、事前事後学修20%					
事前事後学修	研究過程を通して、主体的で能動的な学修参加を期待します。					

授業科目	地域生活支援探究総論	時間割コード		90401		
		教育課程ナンバー		MNSS01L11		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	井上 深幸・滝澤 寛子・津波古 澄子・磯邊 厚子・三林 聖司・川嶋 元子					
授業目的・目標	<p>授業の目的： あらゆる健康段階の人々が、地域でQOLの高い生活を維持できるような支援のあり方について、発達段階および精神保健医療分野の課題などから考究する能力を培う。</p> <p>授業目標： 1) 地域で生活する人の多様な健康生活の課題を説明できる。 2) 課題解決と看護職の役割、あり方について述べるができる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	○	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。		5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。	○	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。	
授業計画	<p>【授業概要】 地域で生活する人々の現代社会における多様な健康生活の課題と、それに対する支援について考究する。さらに、地域包括ケアシステムの進展の中で、地域生活支援探究領域の幅広い視点から自己の問題意識を整理し、明確化していく機会とする。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>【授業計画】 (津波古澄子/2回 第2講、第3講)(井上深幸/2回 第4講、第5講)(川嶋元子/3回 第6講～第8講)(磯邊厚子/2回 第9講、第10講)(三林聖司/3回 第11講～第13講)(滝澤寛子/3回 第1講、第14講、第15講)</p> <p>第1講：オリエンテーション：ヘルスプロモーションの理念と健康の社会的決定要因(滝澤) 第2講：健康な子どもの健康観(津波古) 第3講：地域における子育て支援(津波古) 第4講：地域で生活する人々へのセルフマネジメント支援の必要性(井上) 第5講：ディジーズマネジメントとケアマネジメントの推進(井上) 第6講：病院における退院支援の現状と課題(川嶋) 第7講：継続看護および多職種連携の推進(施設看護と訪問看護)(川嶋) 第8講：外来看護における在宅療養支援の必要性(川嶋) 第9講：いのち・暮らし・こころ・人生を視る(磯邊) 第10講：いのち・生活・尊厳を護る実践的アプローチ(磯邊) 第11講：成人期におけるこころの健康問題(三林) 第12講：青年期におけるこころの健康問題(三林) 第13講：老年期におけるこころの健康問題(三林) 第14講：地域包括ケアシステムの構築と公衆衛生看護活動(滝澤) 第15講：地域で生活する人々の健康をまもるための看護職の果たす役割(滝澤)</p>					
使用テキスト	特に指定しない					
参考図書	適宜紹介する。					
成績評価基準	討議50%、レポート50%					
事前事後学修	事前に提示された資料や文献を読んでから授業にのぞむこと。 地域生活支援に関する課題及びその解決に向けての知見を深めること。					

授業科目	精神地域生活支援特論	時間割コード		90402	
		教育課程ナンバー		MNNSS01L12	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	三林 聖司				
授業目的・目標	<p>【目的】 精神科病院や地域で生活している精神障害者やその家族を取り巻く状況、関係する法律、制度、諸課題を理解し必要と考えられる地域移行・定着支援および地域生活支援を探求する。</p> <p>【目標】 1) わが国と諸外国の精神障害者の現状と課題について理解することができる。 2) 精神障害者の地域移行・定着支援と地域生活支援の現状と課題を理解することができる。 3) 精神障害者の現状での地域移行・定着支援と地域生活支援の課題を解決する方向性について考察することができる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。			◎	
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。			○	
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。			○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。			○	
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 精神医療が入院治療から地域での治療にシフトする中で、支援内容も疾患の完治からリハビリへと変化してきた。その変化の中で様々な制度が整備されてきたが、入院中の精神障害者は多く、地域で生活する上での課題も少なくはない。そこで本特論では、精神科病院や地域で生活している精神障害者やその家族を取り巻く状況、関係する法律、諸制度を多角的に理解し、その人が抱えている課題について考察する。また病院や地域での生活において、精神障害者やその家族がどのような思いで生活しどのような生活や生き方を望んでいるのかを理解する。その上で明確になった課題に対して、当事者や家族の「今の生活」や「今後の生活」への思いをふまえ看護師としてできる支援の方向性を探求する。</p> <p>【授業計画】 第 1講：精神の「障害」とは何か、それを生み出す、社会・心理、生物学要因の理解 第 2講：わが国および諸外国の精神保健福祉の変遷と現状 第 3講：精神障害者支援に関連する法律の変遷 第 4講：精神障害者支援に関連する法律(精神保健福祉法・障害者総合支援法) 第 5講：精神科病院に入院中の精神障害者の生活と課題 第 6講：地域で生活する精神障害者と家族の生活と課題 第 7講：精神障害者と家族の「今の生活」と「今後の生活」への思いを理解する 第 8講：地域移行・定着支援の現状と課題 第 9講：地域移行・定着支援の現状と課題を踏まえた支援内容の検討 第 10講：わが国の精神障害者に対する地域移行・定着支援に関するグループワーク 第 11講：地域生活支援の現状と課題 第 12講：地域生活支援の現状と課題を踏まえた支援内容の検討 第 13講：わが国の精神障害者に対する地域生活支援に関するグループワーク 第 14講：精神障害者に対する地域移行・定着支援及び地域生活支援に関する発表・討論 第 15講：全講義のまとめ</p>				
使用テキスト	資料を配布する。				
参考図書	適時、配布および紹介する。				
成績評価基準	プレゼンテーションの内容50% 課題レポート50%				
事前事後学修	事前に配布する資料を読み込んでおいて下さい。その資料をもとに討論します。				

授業科目	母子地域生活支援特論	時間割コード		90403	
		教育課程ナンバー		MNSS01L13	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	未定 ※シラバスは変更になる可能性があります。				
授業目的・目標	<p>授業目的: 地域で生活する人々のリプロダクティブヘルス・ライツ(Reproductive Health / Rights:RH/R)について、当事者やパートナーのみならず、その子どもや家族へおよび影響や課題をも多角的に把握し、高度実践看護師としての支援のあり方を探究する。</p> <p>授業目標: 1) RH/RIに関する国内外の歴史的・社会的背景を多角的に説明できる。 2) わが国のRH/R関連の政策や支援制度を国際的文脈の中で説明できる。 3) RH/RIに関わる倫理的課題について述べるができる。 4) 少子化が進むわが国の現状を踏まえ、妊娠や出産、子育て、子どもへの健全な小児期の保証(福祉)や家族のあり方の多様性などに関する諸問題について説明できる。 5) 地域での高度実践者として当事者やパートナー・子ども・家族への支援について説明できる。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 リプロダクティブヘルス・ライツは、極めて個人的な要素を持ちつつも国家の経済や発展とも関連し、生物学的に規定されながらも社会的影響を大きく受けるなど、多彩な側面をもつトピックである。特に少子化が進むわが国では、妊娠や出産、子育てのみならず、様々な状況の中で生まれてくる子どもの福祉や家族の在り方の多様性への関心も高まっている。本授業では、わが国のこれらのRH/RIに関する現状や課題を諸外国の事例も踏まえて考察していく。</p> <p>第1講:リプロダクティブヘルス・ライツの概念と歴史の変遷 第2講:セクシュアルヘルスと性的多様性 第3講:プレコンプションヘルス(妊娠前の健康)と課題 第4講:望まない妊娠および子どもの福祉をめぐる現状と課題 第5講:性行為感染症をとりまく現状と課題 第6講:妊娠・出産を取り巻く現状と課題 第7講:子育てをめぐる家族の現状と課題 第8講:乳幼児期の子どもの健康生活と課題 第9講:学童期の子どもの健康生活と課題 第10講:医療的ケア児等とその家族に対する支援の現状と課題 第11講:不妊および生殖補助医療の現状と課題 第12講:家族の在り方の多様性とその理解 第13講:課題の発表および討論 第14講:課題の発表および討論 第15講:まとめ</p>				
使用テキスト	特に指定しない。				
参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	授業への参加度30% 課題および討論 30% レポート40%				
事前事後学修	事前:提示された文献を読んでから授業にのぞむこと。 事後:授業で提示された課題を行う。また、授業内容と関連したトピックについてのニュースや資料などを積極的に読み、社会的文脈の中で問題をとらえること。				

授業科目	高齢者地域生活支援特論	時間割コード		90405		
		教育課程ナンバー		MNSS02L14		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1後	
担当教員	井上 深幸					
授業目的 目標	<p>【目的】 高齢者の地域生活支援は幅広く、保健・医療・福祉の総合ケアとして進展していることを踏まえ、高齢者の支援のための考え方を教授し、高齢者地域生活支援及び高齢者看護実践のあり方と課題解決の方向性について考究する能力を培う。</p> <p>【目標】 1) 高齢者ケア分野において効果的な支援方法を選択するためのベストエビデンスを導き出すことができる。 2) 高齢者地域生活支援に関わる諸理論に関連した研究動向について探究できる。 3) 高齢者地域生活支援における課題解決の方向性について考究できる。</p>					
DPとの 対応	<p>1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎ ○	
授業計画	<p>【授業概要】 高齢者ケア分野において効果的な支援方法を選択するためのベストエビデンスを導き出す方法について修得する。また、高齢者地域生活支援の考え方としての諸理論について理解を深め、高齢者が疾患や障害をもちながら地域で生を全うするための援助方法について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：高齢者支援、高齢者看護に関わる理論、モデル、視座 第2講：高齢者の健康生活と環境：生態学理論 第3講：高齢者の健康生活と環境：先行研究 第4講：高齢者の健康生活と環境について考究する 第5講：高齢者看護と環境：文化ケアの探究 第6講：高齢者看護と環境：文化ケアの探究 第7講：高齢者看護における文化ケアについて考究する 第8講：老化のバイオマーカーの探究 第9講：老化のバイオマーカーの探究 第10講：老化のバイオマーカーについて考究する 第11講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー：効果的な支援方法を導く方法 第12講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー：効果的な支援方法についての探究 第13講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー：効果的な支援方法についての探究 第14講：高齢者看護に関わるシステムティックレビュー：ベストエビデンスについて考究する 第15講：高齢者地域生活支援における課題解決の方向性</p>					
使用 テキスト	指定なし					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価 基準	レポート50%[目標1)] 発表50%[目標1)15% 目標2)15% 目標3)20%)]					
事前事後 学修	各講義毎の事前事後学修は別紙でお知らせします。					

授業科目	公衆衛生看護実践特論	時間割コード		90406	
		教育課程ナンバー		MNSS02L15	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	◎滝澤 寛子・河田 志帆				
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の諸理論を看護実践に活かし、科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動が展開できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1)公衆衛生看護の基盤となる諸理論を説明できる。 2)科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動の実際を探究できる。 3)公衆衛生看護活動における政策形成プロセスの意義について考察できる。 4)公衆衛生看護活動や実習の展開中に芽生えた関心や問題を探究する。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】 科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動が展開できる保健師としての能力を修得する。具体的には、公衆衛生看護の対象である個人、家族、集団の健康の保持増進と地域のヘルスプロモーションを推進する公衆衛生看護の基盤となる諸理論について概説する。科学的根拠に基づく公衆衛生看護活動の実際や、公衆衛生看護活動や実習の展開中に芽生えた関心や問題を探究する。公衆衛生看護活動における政策形成プロセスの意義について考究する。</p> <p>【授業計画】(オムニバス方式/全15回) 第1講:公衆衛生看護領域におけるコミュニティの組織化に関する研究と理論 第2講:公衆衛生看護領域におけるコミュニティの組織化に関する支援の実際 第3講:公衆衛生看護領域におけるソーシャルキャピタルと地域づくりに関する研究と理論 第4講:公衆衛生看護領域におけるソーシャルキャピタルと地域づくりに関する支援の実際 第5講:まとめ 第6講:公衆衛生看護領域における個人・家族に関する研究と理論 第7講:公衆衛生看護領域における個人・家族に関する支援の実際 第8講:公衆衛生看護領域におけるグループ支援に関する研究と理論 第9講:公衆衛生看護領域におけるグループ支援に関する支援の実際 第10講:まとめ 第11講:公衆衛生看護領域におけるヘルスケアシステムづくりに関する研究と理論 第12講:公衆衛生看護領域におけるヘルスケアシステムづくりの実際 第13講:公衆衛生看護領域における政策提言の意義と理論 第14講:政策提言の実際 第15講:まとめ</p>				
使用テキスト	適宜紹介する				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	レポート 80% 事例検討・授業への参加状況 20%				
事前事後学修	各回のテーマに関連する文献を読み、理論と活動の実際について理解を深めること				

授業科目	在宅看護特論	時間割コード		90408	
		教育課程ナンバー		MNSS02L16	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1後
担当教員	◎磯邊 厚子・川嶋 元子				
授業目的・目標	<p>【授業目的】地域包括ケアシステムの中で在宅看護の役割、機能を理解し、在宅で生活する人とその家族の療養生活のQOL向上をめざした在宅看護のあり方について探究できる。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養する人と家族の健康課題について理解できる。 2. 住み慣れた地域で尊厳をもって最後まで暮らし続けることのできる地域包括ケアシステムを考察する。対象者がその人らしく、地域で暮らすことができるよう、在宅療養の意義および看護の責務、今後の展望について探究できる。 3. 在宅療養者およびその家族の生活を支える法制度について理解し、在宅ケアシステムの現状と課題について考察できる。 				
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				
授業計画	<p>【授業概要】在宅で療養する人とその家族の多様な療養生活を理解し、その生活を支援するための理論、概念を教授する。地域包括ケアシステムの構築が進む中での在宅療養の意義および看護の責務、今後の課題について探求する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1講：地域包括ケアシステムの社会的背景と地域共生社会 第2講：地域包括ケアシステムの概念－医療の視点、看護の視点、生活支援の視点 第3講：地域包括ケアにおける多職種協働 第4講：在宅療養を支える法、制度 第5講：在宅看護における倫理的課題① 第6講：在宅看護における倫理的課題② 第7講：在宅看護における地域および人々の暮らしの理解 第8講：暮らしの中での地域・在宅看護の実践 第9講：在宅看護における家族支援① 第10講：在宅看護における家族支援② 第11講：在宅看護に関する理論①－家族看護 第12講：在宅看護に関する理論②－終末期看護 第13講：諸外国における在宅看護 第14講：在宅看護に関する研究① 第15講：在宅看護に関する研究②</p>				
使用テキスト	使用せず				
参考図書	適宜紹介する				
成績評価基準	レポート70%、事例検討、授業への参加状況30%				
事前事後学修	事前に『地域・在宅看護の基盤』の第2章を読む、事後は授業進行に沿って、適宜課題を行う				

授業科目	地域生活支援探究課題演習	時間割コード		90407		
		教育課程ナンバー		MNSS02E17		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		演習	2(60)	選択	1後	
担当教員	主指導教員・副指導教員 他					
授業目的・目標	<p>【目的】 地域包括ケアシステムの進展の中で、地域生活支援探究に関する課題と展望を明確にするとともに、研究過程の演習を通して、基本的な研究展開方法を習得し、自己の研究に生かすことができる。</p> <p>【目標】 1) 演習を通して、多角的な意見や助言、指導を得て、自己の研究疑問から研究課題を明確にし、研究計画の立案ができる。 2) ディスカッションおよび発表会で得られた意見、助言、指導を自身の研究に有効に活用できる。 3) 根拠に基づく実施可能な研究計画を立案できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	◎				
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。	◎				
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。	○				
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。	◎				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					
授業計画	<p>【授業概要】 地域生活支援探究領域専攻の学生を支援する領域別演習であり、本領域を担当する全教員、同領域専攻の全学生の参加のみならず、一部、看護の智探究領域の担当教員および専攻学生との共同による対話、発表、討論形式で進める。 学生の問題意識に基づき、国内外の論文のクリティーク、研究疑問の絞込み、研究計画を立案する基礎能力を養う。 (全30回)</p> <p>【授業計画】 第 1～ 6講：課題設定、文献レビュー、研究計画の検討 第 7～ 9講：研究課題発表会 第10～14講：研究計画の検討 第15～17講：研究計画中間発表会 第18～25講：研究計画書作成 第26～28講：研究計画発表会 第29～30講：研究計画のブラッシュアップ</p>					
使用テキスト	特に定めない					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価基準	発表資料・プレゼンテーション50%(研究課題発表15%、研究計画中間発表15%、研究計画発表20%)、ディスカッション30%、事前事後学修20%					
事前事後学修	研究過程を通して、主体的で能動的な学修参加を期待します。					

授業科目	公衆衛生看護学特論	時間割コード		90501		
		教育課程ナンバー		MNSS01L18		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	◎滝澤 寛子・三輪 眞知子					
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の基本理念、個人、家族、コミュニティの変革と支援に関する概念、理論及び活動の方法論について理解を深め、公衆衛生看護実践およびその科学的根拠をもった探究力を養い、公衆衛生看護を担う保健師としてのアイデンティティを培う。</p> <p>【目標】 1)公衆衛生看護の歴史、基本理念から保健師の役割が考察できる。 2)個人、家族、コミュニティに関する理論的基盤、構成する概念を理解し、有効に機能させるための支援方法について考察できる。 3)1)・2)を踏まえて、公衆衛生看護実践の特性および保健師の果たす役割を論じることができ、さらに科学的根拠をもって探究する必要性について説明できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。	○				
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。	◎				
授業計画	<p>【授業概要】 講義およびディスカッションを行う。また、個人・家族、コミュニティに関する概念・理論、方法論に関するプレゼンテーションや事例検討を行い理解を深める。公衆衛生看護実践の特性と課題、効果的な具体的支援方法、今後の看護実践の方向性についてディスカッションを通して深め、科学的根拠をもった探究心を養う。</p> <p>【授業計画】 (滝澤寛子/11回 第1講～第11講) (三輪眞知子 /4回 第12講～第15講) 第1講: Introduction: ヘルスケアシステムの概要 第2講: 公衆衛生看護の理念と目的 第3講: 生活基盤としての地区・小地域への支援: アセスメント 第4講: 生活基盤としての地区・小地域への支援: 支援の展開 第5講: 公衆衛生看護の基盤となる概念 第6講: 地域社会の最小単位としての個人・家族への支援: 行動変容理論 第7講: 地域社会の最小単位としての個人・家族への支援: アセスメント 第8講: 地域社会の最小単位としての個人・家族への支援: 支援の展開 第9講: 地域ケアシステム・ネットワークづくり 第10講: 公衆衛生看護活動の展開: 個のから地域の健康課題への展開 第11講: 公衆衛生看護の倫理 第12講: 公衆衛生看護の歴史: 保健師の使命と役割の視点 第13講: 公衆衛生看護の歴史: 近年の保健・医療・福祉・教育政策 第14講: 住民との協働による地域づくりの理論 第15講: 住民との協働による地域づくりに関する支援方法</p>					
使用テキスト	麻原きよみ責任編集、公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論、医歯薬出版株式会社。					
参考図書	金子仁子編著、保健の実践科学シリーズ 行政看護学、講談社。 その他適宜紹介する					
成績評価基準	課題・レポート80% 討議・授業への参加態度20%					
事前事後学修	常に疑問を持ち、不明点はまず、自らリサーチして課題を解消する習慣をつける。					

授業科目	健康教育・地区組織育成特論	時間割コード		90502		
		教育課程ナンバー		MNSS02L19		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1後	
担当教員	◎滝澤 寛子・河田 志帆					
授業目的・目標	<p>【目的】 健康教育の基本的知識、グループの特性を理解し、保健師が行う健康教育の意義と、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と看護職の役割について考究する。</p> <p>【目標】 1)保健師が行う健康教育の目的、意義を説明できる。 2)保健行動を促す教育的かかわりで重視する点を列挙できる。 3)地域で展開する健康教育の企画、実施、評価の過程とその大事な視点を説明できる。 4)グループの特性、および、グループ活動の意義と支援者の役割を説明できる。 5)ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と、看護職の役割について自分の考えを述べることができる。</p>					
DPとの対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 ◎</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ○</p>					
授業計画	<p>【授業概要】 健康教育の基本的知識を理解し、健康教育の目的、方法を学ぶ。行動変容の関連理論を理解するだけでなく、対象者のセルフケア能力を高める必要性を理解し、セルフケア能力の獲得を促す健康教育方法について学習する。また、グループを単位とする活動の特徴についても理解し、ヘルスプロモーション推進に向けた健康教育・地区組織活動と保健師の役割について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：健康の概念、健康教育の目的 第2講：個人を対象とした健康教育の展開 第3講：保健行動を促す保健指導(1) 第4講：保健行動を促す保健指導(2) 第5講：健康教育の方法 第6講：地区活動として行う健康教育の展開 第7講：地区組織の育成：セルフヘルプ・グループ活動 第8講：地区組織の育成：地区住民組織と協働活動 第9講：健康教育企画書の作成(1) 第10講：健康教育企画書の作成(2) 第11講：健康教育企画書の作成(3) 第12講：健康教育指導案の作成(1) 第11講：健康教育指導案の作成(2) 第14講：健康教育指導案の作成(3) 第15講：まとめ：ヘルスプロモーションと健康教育・地区組織活動</p>					
使用テキスト	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術、中村裕美子他著、医学書院。					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価基準	課題評価60% レポート40%					
事前事後学修	テキストの該当ページを読み予復習すること 講義内容を踏まえて計画的に課題に取り組むこと					

授業科目	公衆衛生看護管理論	時間割コード		90503		
		教育課程ナンバー		MNSS01L20		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	滝澤 寛子					
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護管理の重要性、保健活動の質保証のために必要な基本的視点や管理的保健師の役割について理解を深め、新入期から担う管理機能を考察する。また、健康危機管理発生時の対応から平常時の取り組みまでを探究する。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護管理の意義と機能が説明できる。 2) 保健活動の質保証のための基本的視点を説明できる。 3) 管理的保健師の役割を説明できる。 4) 健康危機管理発生時の公衆衛生看護活動と平常時の活動について考察できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護管理の特色などについて概説し、公衆衛生看護管理の基本や諸相を理解し、新入期から担う役割と統括保健師としての機能や役割、人材育成、健康危機管理について理解できる。</p> <p>【授業計画】 第1講：公衆衛生看護管理の特色・機能 第2講：公衆衛生看護管理の諸相① 第3講：公衆衛生看護管理の諸相② 第4講：公衆衛生看護管理の諸相③ 第5講：公衆衛生看護管理と統括保健師の役割 第6講：保健師の現任教育 第7講：保健活動の質保証：精度管理 第8講：保健活動の質保証：ケアシステム 第9講：健康危機管理：虐待①問題点の検討 第10講：健康危機管理：虐待②解決策の検討 第11講：健康危機管理：災害①問題点の検討 第12講：健康危機管理：災害②解決策の検討 第13講：健康危機管理：感染症①問題点の検討 第14講：健康危機管理：感染症②解決策の検討 第15講：公衆衛生看護管理のまとめ</p>					
使用テキスト	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理、平野かよ子他著、メヂカルフレンド社。					
参考図書	新版保健師業務要覧第4版、日本看護協会出版会。 日本看護協会『保健師活動指針活用ガイド』					
成績評価基準	レポート50% ディスカッション50%					
事前事後学修	履修している公衆衛生看護学関係科目と関連について事前事後学習をする。					

授業科目	学校保健論・産業保健論		時間割コード		90504	
			教育課程ナンバー		MNSS02L21	
			授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
			講義	2(30)	選択	1後
担当教員	堀井 節子(学校保健論)・河田 志帆(産業保健論)					
授業目的・目標	学校保健論	<p>【授業目的】 学校保健の目的と制度、基礎的な展開方法、児童生徒の健康課題などを理解して、学校保健と連携・協働した地域保健活動のあり方を考察する。</p> <p>【目標】 1)学校保健の目的及び内容、制度を理解する。 2)学校保健活動の展開方法を理解する。 3)児童生徒の今日的な健康課題を理解する。 4)すべての教職員及び地域の関係機関と連携した学校保健の重要性を理解する。 5)学校保健と連携・協働した地域保健活動のあり方を考察する。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					◎
授業計画	学校保健論(全8回)	<p>【授業概要】 学校における保健活動の実際を教授し、児童生徒の健康課題を理解し、地域保健行政とのつながりを理解する。学校保健と地域保健の連携など包括的ヘルスケアシステムについて教授する。</p> <p>【授業計画】 第1講:学校保健の目的と内容、歴史 第2講:学校保健行政と学校保健担当者 第3講:学校保健計画と保健教育・保健管理・組織活動 第4講:学校安全計画と安全教育・安全管理・組織活動 第5講:児童生徒の今日的な健康課題 第6講:特別支援教育の現状と課題 第7講:すべての教職員及び地域の関係機関と連携した学校保健の推進 第8講:事例で考える学校保健との連携・協働による地域保健活動の展開</p>				
使用テキスト	(学校保健論) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院					
参考図書	(学校保健論) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)					
成績評価基準	(学校保健論) レポート 100%					
事前事後学修	(学校保健論) 授業計画に沿って、1時間程度の予習復習を課し、その理解状況を確認して授業を進める。 特に地域における母子保健や精神保健、障がい児保健などの支援体制について復習しておくこと。					

授業計画	産業保健論	<p>【授業目的】 業務に起因する健康障害の予防、健康と労働の調和、健康および労働能力の保持増進を図るための個人および集団に向けた産業保健活動について理解し、健全な職業生活を支える保健師の役割について考究する。</p> <p>【目標】 1) 産業保健に係る関連法規や安全衛生管理体制について理解できる 2) 産業保健の動向と現状を理解し、労働者の健康課題について検討できる 3) 健全な職業生活を支える保健師の役割について考究できる 4) 地域保健と連携した包括的なヘルスケアシステムを考究できる</p>
DPとの対応		<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 ○</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 ◎</p>
授業計画	産業保健論（全7回）	<p>【授業概要】 産業分野(企業等)における保健活動の実際を教授し、労働者の健康問題について理解し、地域の行政とのつながりを理解する。産業保健と地域保健の連携等包括的ヘルスケアシステムについて教授する。</p> <p>【授業計画】 第9講：産業看護の理念と目的 第10講：産業保健・産業看護の歴史と制度 第11講：労働安全衛生関連法規と労働安全衛生管理体制 第12講：生活習慣病予防対策 第13講：メンタルヘルス対策及び過重労働による健康障害防止対策 第14講：配慮が必要な労働者への対応 第15講：地域・職域連携</p>
使用テキスト	(産業保健論) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院	
参考図書	(産業保健論) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)	
成績評価基準	(産業保健論) レポート 100%	
事前事後学修	(産業保健論) 予習：授業計画の内容に沿って、教科書や各種資料などから情報収集をすること。 復習：授業内容を整理し、保健師として労働者の健康をどのように守るかを考察すること。	

授業科目	公衆衛生看護活動特論Ⅰ	時間割コード		90505		
		教育課程ナンバー		MNNSS01L22		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	河田 志帆					
授業目的・目標	<p>【目的】 発達段階および健康段階に応じた保健活動について理解し、公衆衛生看護の目的・目標を実現するために地域で生活する人々の健康を支援する保健指導技術を展開する能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 発達段階・健康課題の特性に応じた保健活動とその動向・施策・制度が説明できる。 2) 各保健活動に必要な連携体制や社会資源を説明できる。 3) 対象の特性に応じた保健指導方法について説明できる。 4) 保健師活動の基本となる家庭訪問の重要性について説明できる。 5) 支援技術の実践に必要な解剖・生理・病態学、発育・発達、フィジカルアセスメント、社会資源、地域特性、社会経済背景の知識を獲得する必要性と方法について説明できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【概要】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問、健康相談、保健指導の目的、特徴、理論、展開方法について学ぶ。特に家庭訪問については保健師の基本技術とし、科学的根拠に基づく保健指導ができる知識を学ぶ。また、対象の特性に応じた公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。</p> <p>【授業計画】 第1講：母子保健活動 第2講：成人保健活動 第3講：高齢者保健活動 第4講：精神保健活動 第5講：障害者(児)保健活動 第6講：難病保健活動 第7講：感染症保健活動 第8講：家族アセスメントの基礎となる理論 第9講：保健指導の目的、特徴、展開方法 第10講：保健指導の展開①(健康相談) 第11講：保健指導の展開②(健康診査) 第12講：保健指導の展開③(家庭訪問) 第13講：保健指導の展開④(家庭訪問) 第14講：保健指導の展開⑤(家庭訪問) 第15講：対象の特性に応じた支援技術の展開</p>					
使用テキスト	・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第5版), 医学書院, 2023 ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(第4版), 医学書院, 2018					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価基準	課題・レポート80% 授業への参加態度20%					
事前事後学修	テキストの該当ページを読み予習・復習をすること 社会情勢に興味関心を持ち情報収集を行うこと					

授業科目	公衆衛生看護活動特論Ⅱ	時間割コード		90506		
		教育課程ナンバー		MNSS01L23		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		講義	2(30)	選択	1前	
担当教員	◎滝澤 寛子・波多野 浩道					
授業目的 目標	<p>【目的】 地域診断の目的、特徴、展開方法について理解し、支援技術の必要性、専門性について探究し、支援技術を展開する能力を培う。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護の支援技術である地域診断の目的、特徴、展開方法について説明できる。 2) 保健師活動の基本となる地域診断の重要性について説明できる。 3) 地域の健康課題の明確化のためのデータの活用、地域の健康課題と活動計画の対応について説明できる。</p>					
DPとの 対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○	
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 地域診断の目的、特徴、展開方法について理解し、支援技術の必要性、専門性について探求し、支援技術を展開する能力を培う。具体的には、公衆衛生看護の支援技術である地域診断の目的、特徴、展開方法について学習し、保健師活動の基本となる地域診断の重要性について探究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：地域診断の目的 第2講：地域診断の意義・視点 第3講：地域診断に必要な理論 第4講：地域診断に必要なモデル 第5講：地域診断に必要なツール 第6講：地域診断に必要な質データ 第7講：地域診断に必要な量データ 第8講：個別課題から地域課題への展開：質データと量データの統合 第9講：地域診断の展開方法①情報収集 第10講：地域診断の展開方法②ニーズアセスメント 第11講：地域診断の展開方法③健康問題の抽出 第12講：地域診断の展開方法④健康課題の明確化 第13講：地域診断の展開方法⑤実施計画 第14講：地域診断の展開方法⑥評価計画 第15講：まとめ</p>					
使用 テキスト	佐伯和子責任編集,公衆衛生看護学テキスト2,公衆衛生看護技術,医歯薬出版KK					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価 基準	課題・レポート80% 授業・ディスカッションへの参加状況20%					
事前事後 学修	<p>予習：居住する市町村の広報を入手し住民へ提供する健康情報を理解しておくこと。 家族や周囲の人々の健康情報の収集方法、健康行動について観察やインタビューをしておくこと。 健康や健康政策に関する新聞記事に毎日目を通しておくこと。 復習：講義内容を復習し、ノートにまとめておくこと。</p>					

授業科目	公衆衛生看護活動演習Ⅰ	時間割コード		90507		
		教育課程ナンバー		MNNSS01E24		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		演習	2(60)	選択	1前	
担当教員	河田 志帆					
授業目的・目標	<p>【目的】 公衆衛生看護の支援技術である家庭訪問や健康相談について科学的根拠に基づき展開する知識、態度、技術を修得する。また、個の抱える課題が地域全体の課題であると捉える能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 家庭訪問と健康相談についての事例を通じて、科学的根拠に基づいた展開ができる。 2) 事例を通じて、予防的アプローチを行うための動機付けとなる面接技術を修得する。 3) 事例を通じて、対象が潜在的に抱える課題を聞き取るためのコミュニケーション能力を修得する。 4) 事例を通じて、対象に必要な各種保健サービスや制度の適用や開発を検討できる。 5) 事例を通じて、対象が抱える課題が地域全体の課題であると捉える能力を修得する。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 事例を通じ、家庭訪問や健康相談について科学的根拠に基づいた支援計画を作成し、ロールプレイ等を通じて支援技術を学ぶ。また、対象者が持つ特性に応じ、動機付けや潜在的な問題を把握する面接技術やコミュニケーション能力をロールプレイ等を通じて修得する。さらに個別の支援事例を通じて、対象者が生活する地域の生活実態や医療福祉の状況等に関連づけて地域全体の支援を検討することを学ぶ。</p> <p>【授業計画】 第1・2講：母子保健活動の実際 第3・4講：成人保健活動の実際 第5・6講：高齢者保健活動の実際 第7・8講：障害者(児)保健活動の実際 第9・10講：精神保健活動の実際 第11・12講：難病保健活動の実際 第13・14講：感染症保健活動の実際 第15-20講：健康相談の実際(ロールプレイを通じた面接技術) ・ニーズを捉えるコミュニケーション ・生活背景を捉えるコミュニケーション 第21・22講：家庭訪問の実際①(ニーズアセスメント) 第23-26講：家庭訪問の実際②(支援計画の立案) 第27・28講：家庭訪問の実際③(家庭訪問のロールプレイ) 第29講：家庭訪問の実際④(評価) 第30講：事例を通じた地区活動への展開</p>					
使用テキスト	<p>・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第5版), 医学書院, 2023 ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(第4版), 医学書院, 2018</p>					
参考図書	適宜紹介する					
成績評価基準	レポート60% 演習への参加状況40%					
事前事後学修	<p>予習：公衆衛生看護活動特論Ⅰの内容を踏まえ、演習課題に取り組む準備をすること 復習：演習後の記録、評価をすること</p>					

授業科目	公衆衛生看護活動演習Ⅱ	時間割コード		90508		
		教育課程ナンバー		MNSSO1E25		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		演習	2(60)	選択	1前	
担当教員	河田 志帆					
授業目的 目標	<p>【目的】 健康問題に関連する地域の様々な情報を包括的に収集し、理論やPDCAサイクルをふまえて一連の地域診断の過程を展開できる能力を養う。科学的根拠のあるデータを基に健康課題を明らかにして支援計画が作成でき、説得力のある提示ができる能力を養う。</p> <p>【目標】 1)健康問題に関連する地域の様々な情報を包括的に収集できる。 2)理論やPDCAサイクルをふまえた一連の地域診断の過程の展開ができる。 3)科学的根拠のあるデータを基にして健康課題を明らかにし支援計画が作成でき、説得力のある提示ができる。</p>					
DPとの 対応	1) 智をいつくむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいつくむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいつくむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。					
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。					
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。					
授業計画	<p>【授業概要】 公衆衛生看護学実習Ⅱaで出向く実習地域を事例として、公衆衛生看護活動特論Ⅱで学修した地域診断のプロセスに則って地域の生活環境や生活実態、健康状態に関する情報を収集・分析し、地域に顕在化・潜在化している地域住民の健康課題を明らかにする。さらに健康課題を解決するため活動計画および評価計画を立案し、根拠に基づき提示する。既存資料に加え、地区踏査等、さまざまな情報を包括的に収集・分析し、健康課題を明確にして活動計画を立案する一連の過程について演習を行う。</p> <p>【授業計画】 第1・2講：地域の概要の情報収集と分析 第3・4講：地域のコア(人口集団)の情報収集と分析 第5・6講：地域のサブシステム(人々を取り巻く環境)の情報収集と分析① 第7・8講：地域のサブシステム(人々を取り巻く環境)の情報収集と分析② 第9・10講：人々を取り巻く環境のマップ作り 第11・12講：人々の健康と生活の情報収集と分析① 第13・14講：人々の健康と生活の情報収集と分析② 第15・16講：人々の健康と生活の情報収集と分析③ 第17・18講：人々の健康と生活の情報・アセスメントの共有と健康課題の検討 第19・20講：地区踏査計画の立案 第21・22講：地区踏査の実施 第23・24講：アセスメントの統合・健康課題の構造化と健康課題の抽出 第25・26講：活動計画・評価計画の作成 第27・28講：健康課題・活動計画のプレゼンテーションの資料準備 第29・30講：健康課題・活動計画のプレゼンテーションの実施と評価</p>					
使用 テキスト	地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド, 医歯薬出版株式会社					
参考図書	<p>・標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論(第6版),医学書院,2022. ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第5版),医学書院,2023. ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(第4版),医学書院,2018. ・公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術, 医歯薬出版 ・エリザベスT.アンダーソン他編,コミュニティ・アズ・パートナーモデル,医学書院,2007. ・厚生労働統計協会,国民衛生の動向,最新版</p>					
成績評価 基準	レポート・地域診断80% 演習への取り組み・ディスカッション参加状況20%					
事前事後 学修	予習:演習に用いる資料を準備し、演習課題の案を作成しておくこと。 復習:演習後の記録、評価をしておくこと。					

授業科目	保健統計学	時間割コード		90509	
		教育課程ナンバー		MNNS02L26	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択(コース必修)	1後
担当教員	齋藤 真				
授業目的 目標	<p>【目的】 本講義では、統計学の考え方と分析技術を習得し、公衆衛生看護学や疫学等で扱うさまざまなデータを分析、予測することを学ぶ。これによって疾病を予防し、健康水準を高める方策について科学的に理解する。本講義では統計学を基本にSPSSを用いたデータ集計技法を中心に解説をする。</p> <p>【目標】 1) 公衆衛生看護における保健統計学の意義が理解できる。 2) データを分析し、科学的思考ができる。 3) SPSSを活用できる。</p>				
DPとの 対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				◎
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				○
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療分野における統計学について 2. SPSSの操作方法について 3. 記述統計について(データの分布、基本統計量) 4. クロス集計について 5. 推定と検定、パラメトリックとノンパラメトリック 6. 母平均の検定、平均値の差の検定(対応なし)、平均値の差の検定(対応あり) 7. マンホイットニーのU検定、ウイルクソンの符号付き順位検定 8. カイ2乗検定(適合度の検定、独立性の検定(2×2)、分割表(m×n)、残差分析) 9. 相関係数(ピアソン積率相関係数)と一時回帰 10. 順位相関(ケンドールのτとスピアマンのρ) 11. 一元配置分散分析と多重比較(対応なし) 12. 一元配置分散分析と多重比較(対応あり) 13. 多変量解析①(重回帰分析) 14. 多変量解析②(判別分析) 15. 多変量解析③(因子分析) 				
使用 テキスト	オリジナルテキストを配布する				
参考図書	SPSSの資料は開講時に配る。				
成績評価 基準	レポート(50%)、講義内課題(50%)				
事前事後 学修	事前に教科書で概要を確認し、事後に自ら課題を行って確認をすること。				

授業科目	疫学	時間割コード		90510	
		教育課程ナンバー		MNSS02L27	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択(コース必修)	1後
担当教員	齋藤 真				
授業目的 目標	<p>【目的】 人間集団の健康問題を解決することを目指す公衆衛生において、必要な疫学の原理および基礎的方法について理解する。具体的には、疫学の目的と方法、人間の健康問題に疫学がどのように関係するのかを理解する。また、公衆衛生におけるデータがどのように活用されるかを知る。さらに疫学で用いられる健康指標、疫学調査法を集団の健康状態の把握や分析に活用する知識を修得する。</p> <p>【目標】 1) 疫学における基本的概念と用語を理解できる。 2) 疫学研究の一連の流れを理解できる。 3) 公衆衛生看護活動の展開に活用できる能力を修得できる。</p>				
DPとの 対応	<p>1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。</p> <p>2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。</p> <p>3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。</p> <p>4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。</p> <p>5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。</p> <p>6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。</p>				◎ ○
授業計画	<p>1. 疫学とは 第1章「疫学とは何か」、2章「疾病の発生原因の解明の追究までの流れと関連事項」 2. 疫学で用いられる指標① 第3章「疫学で用いられる指標」 3. 疫学で用いられる指標② 第3章「疫学で用いられる指標」 4. 疫学の母集団と標本 第4章「疫学研究を始める前に」 5. 演習①（講義1.～4.回までの演習と解説） 6. 疫学の研究方法(記述疫学) 第5章「記述疫学」 7. 疫学の研究手法(分析疫学①) 第6章「分析疫学」 8. 疫学の研究手法(分析疫学②、介入研究) 第6章「分析疫学」、第7章「介入研究」 9. 因果関係、交絡因子、バイアス等 第9章「バイアスと交絡」、第10章「因果関係」 10. スクリーニング 第11章「スクリーニング」 11. 演習②（講義6.～10.回までの演習と解説） 12. 疫学で用いられる統計的手法 第14章「疫学で用いられる統計学的手法とその解釈」 13. 疫学の応用(臨床研究、倫理) 第18章「疫学研究と倫理」 14. 人口静態・動態、生命表 第15章「生命表・平均寿命」、 第16章「保健統計調査」、国民衛生の動向 第2編「衛生の主要指標」 15. まとめ 演習問題の解説</p>				
使用 テキスト	はじめて学ぶやさしい疫学(日本疫学会監修, 南江堂)				
参考図書	国民衛生の動向				
成績評価 基準	レポート(50%)、講義内課題(50%)				
事前事後 学修	事前に教科書を熟読, 事後に確認をすること。				

授業科目	保健医療福祉行政システム論	時間割コード		90511	
		教育課程ナンバー		MNSS01L28	
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次
		講義	2(30)	選択	1前
担当教員	池田 裕子				
授業目的・目標	<p>【目的】 地域の人々に必要な保健医療福祉政策が提言できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 我が国の保健医療福祉政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 2) 諸外国の保健医療福祉政策を理解する。 3) 都道府県の保健福祉医療政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 4) 市町村の保健福祉医療政策の現状と課題及び行政システムを理解する。 5) 保健福祉医療政策と公衆衛生看護活動との関連を理解する。</p>				
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎
授業計画	<p>【授業概要】 国・都道府県・市町村の保健・医療・福祉政策及びその政策を進める行政システムについて解説し、現代の各行政課題について討議を踏まえ検討する。さらに、保健医療福祉行政分野の計画策定や政策提言の仕組みについて教授し、公衆衛生看護活動における政策化の意義および重要性について考究する。</p> <p>【授業計画】 第1講：保健医療福祉行政の法的基盤とその目標 第2講：保健医療福祉制度の変遷と動向 第3講：わが国の保健医療福祉行政のしくみと機能 第4講：都道府県の行政システム 第5講：都道府県の保健福祉政策の現状と課題 第6講：市町村の行政システム 第7講：市町村の保健福祉政策の現状と課題 第8講：保健医療福祉財政のしくみ① 国 第9講：保健医療福祉財政のしくみ② 都道府県・市町村 第10講：保健医療福祉計画の行政過程・実施過程 第11講：保健医療福祉計画の策定過程と保健師活動 第12講：保健師活動と政策① 保健師活動と政策の関連 第13講：保健師活動と政策② 具体事例の展開 第14講：保健医療福祉行政における公衆衛生の専門職としての保健師の役割 第15講：保健医療福祉行政システム論 総括</p>				
使用テキスト	標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論 (医学書院)				
参考図書	適宜、紹介する				
成績評価基準	レポート50% 講義内課題50%				
事前事後学修	「地域包括ケアシステム論」、「公衆衛生看護管理論」とどのように連動しているのか復習や予習をする				

授業科目	保健医療福祉行政システム論演習	時間割コード		90512		
		教育課程ナンバー		MNSS02E29		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		演習	2(60)	選択	1後	
担当教員	滝澤 寛子・◎河田 志帆・池田 裕子					
授業目的・目標	<p>【目的】地域の人々に必要な保健医療福祉政策が提言できる保健師としての能力を修得する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に保健行政システム及び地域の健康課題と行政の取り組みを理解する。 2) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に医療行政システム及び地域の医療課題と行政の取り組みを理解する。 3) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例に福祉行政システム及び地域の福祉課題と行政の取り組みを理解する。 4) 公衆衛生看護学実習Ⅲの実習施設における地域包括ケアシステムの課題を抽出し、システム構築のための政策提言ができる。 					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。					
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。		○			
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。					
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。		○			
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。		◎			
授業計画	<p>【授業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護学実習Ⅲの行政組織を事例として、行政に関する情報を収集し、行政システムを理解する。 2) 行政システムの課題に気づくとともに地域住民にとって必要な保健医療福祉政策が提供されるような解決策を探究する。 3) 地域住民の保健医療福祉の課題解決のための地域包括ケアシステムを考究し、必要な政策提言を模擬実施する。 <p>【授業計画】</p> <p>第1講：保健医療福祉行政と保健師活動(復習)</p> <p>第2・3・4講：既存資料からの情報収集及び分析：地域のコア・サブシステム</p> <p>第5・6・7講：既存資料からの情報収集及び分析：地域の人々の健康と生活</p> <p>第8講：地区踏査計画立案(地域サーベイ)</p> <p>第9講：地区踏査計画立案(住民・関係者聞き取り)</p> <p>第10・11・12講：地区踏査実施(地域サーベイ、住民・関係機関聞き取り)</p> <p>第13講：地区踏査情報整理と対象の焦点化</p> <p>第14講：焦点化した対象住民の生活関連図作成</p> <p>第15講：健康課題明確化</p> <p>第16講：行政における政策化のプロセス(復習)</p> <p>第17講：保健医療福祉行政システムの課題の統合化及び地域の保健課題の解決方法</p> <p>第18・19講：政策提言のための地域の現状と問題の抽出</p> <p>第20・21・22講：問題と現状から原因を分析</p> <p>第23講：焦点化した地域保健課題の抽出</p> <p>第24・25・26講：地域保健課題に対する保健活動の立案</p> <p>第27・28講：政策提言書作成</p> <p>第29講：政策提言パワーポイントスライド作成及びプレゼンテーション準備</p> <p>第30講：政策提言のプレゼンテーション及びまとめ</p>					
使用テキスト	標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論 (医学書院)					
参考図書	『政策形成の本質』 真山達志著、成文堂。					
成績評価基準	レポート(政策提言書を含む)80% グループディスカッション参加20%					
事前事後学修	公衆衛生看護活動特論Ⅱおよび公衆衛生看護活動演習Ⅱで行う地域診断ツール、プロセスの予習復習					

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅰ	時間割コード		90513		
		教育課程ナンバー		MNSS01P30		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		実習	1(45)	選択	1通	
担当教員	滝澤 寛子					
授業目的・目標	<p>【目的】 地域で暮らす人々に継続的に関わる中で、個人・家族を単位としての継続支援について学修する。また、対象者および家族と人間関係を構築できる対人関係能力を養うとともに、専門職としての自立心と判断力を修得する。</p> <p>【目標】 1)対象者の健康状態や家族の状況、地域での生活、社会資源を理解し、地域での健康な生活を支援する意義を考えることができる。 2)対象者と関係を構築できる対人関係能力を養うとともに個人、家族、集団に対する支援力が修得できる。 3)個人、家族、集団の抱える問題を地域全体の課題として捉えることができる能力が修得できる。 4)個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 5)最新の知識・技術を自ら学び続ける学究的態度を身につけ、実習先の資料収集を行い、実習により生じた疑問等を特別研究において探究することができる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○	
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 地域で暮らす人々に継続的に関わる中で、個人・家族を単位としての継続支援について学修する。また、対象者および家族と人間関係を構築できる対人関係能力を養うとともに、専門職としての自立心と判断力を修得する。 1) 臨地実習 2) 学内での事前・事後学習</p> <p>【授業計画】 <9月> ・実習前オリエンテーション <10月～3月> ・事例の紹介および顔合わせ ・1事例に対して家庭訪問等による継続的な個別支援の実施 ・個別支援後の事例検討会の実施 ・事例検討会を通して、ケアマネジメントと必要な社会資源を考察 ・全体まとめ ・レポートの作成</p>					
使用テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト					
参考図書	適宜、提示します。					
成績評価基準	事前学習10%、実習態度30%、事例検討会でのディスカッション20% 実習記録・レポート40%					
事前事後学修	実習開始前に、保健師コースで履修した内容を復習しておくこと。 事前課題は事前に提示します。					

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ-a	時間割コード		90514			
		教育課程ナンバー		MNSSO1P31			
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次		
		実習	4(180)	選択	1前		
担当教員	◎河田 志帆・滝澤 寛子						
授業目的・目標	<p>【目的】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、都市型地域における「公衆衛生看護活動展開論」及び「公衆衛生看護管理論」を学び、「個人、家族、集団、地域の複雑化潜在化している健康問題に対応できる保健師」、「地域の健康課題を解決する方策を探究し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」の能力を修得する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)保健事業の参加及び個別への支援を積み重ねることにより公衆衛生看護活動の基盤となる知識や態度を身につける。 2)都市型地域における公衆衛生看護の実施機関である保健所・保健センターの機能と所属する保健師の役割について理解するとともに、地域特性をふまえた地域における公衆衛生看護活動の展開プロセスを主体的に体験して学ぶ。 3)地域住民が抱える潜在ニーズや健康課題の実際を理解し、集団、地域への支援を探究する。 4)乳幼児健診・特定健診の未受診者への支援、結核の治療中断者等への支援、複雑な健康問題を有する人々への支援の実際を通して具体的な支援方法を学ぶ。 5)「公衆衛生看護活動演習Ⅱ」において明らかにした実習先の健康課題をふまえた公衆衛生看護活動の展開を行い、健康課題の解決に向けて地域特性を考慮した公衆衛生看護活動の実施・評価ができる能力を養う。 6)地域住民及び保健・医療・福祉の連携・協働の実際、関係機関と関係を構築し、協働活動を展開できる能力を養う。 7)災害保健活動及び感染症保健活動、虐待予防といった健康危機管理の実際を理解し、平常時に必要な知識・態度・支援方法を習得し、健康危機管理の課題を探究する。 8)都市型組織における統括保健師の役割と機能について理解し、公衆衛生看護管理の実際を探究する。 						
DPとの対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。 2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。 3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。 4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生みだすことができる。 5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。 6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。 						
授業計画	<p>【授業概要】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、都市型地域において「公衆衛生看護活動展開論」および「公衆衛生看護管理論」を学び、「個人、家族、集団地域の複雑化潜在化している健康問題へ対応できる保健師」「地域の健康課題を解決する方策を探究し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」を育成する。</p> <p>1)臨地実習(京都市内保健福祉センター) 2)学内での事前準備学習(課題学習等)</p> <p>【授業計画】(共同)</p> <table border="0"> <tr> <td> <p><臨地実習での内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・家庭訪問 ・各種保健事業への参加 ・各種地域ケア関連会議への参加 ・地区組織活動への参加 ・保健師のシャドウイング ・健康危機管理に関する講話 ・カンファレンス </td> <td> <p><学内></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政保健師の役割についての意見交換 ・実習全体のまとめ </td> </tr> </table>					<p><臨地実習での内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・家庭訪問 ・各種保健事業への参加 ・各種地域ケア関連会議への参加 ・地区組織活動への参加 ・保健師のシャドウイング ・健康危機管理に関する講話 ・カンファレンス 	<p><学内></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政保健師の役割についての意見交換 ・実習全体のまとめ
<p><臨地実習での内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・家庭訪問 ・各種保健事業への参加 ・各種地域ケア関連会議への参加 ・地区組織活動への参加 ・保健師のシャドウイング ・健康危機管理に関する講話 ・カンファレンス 	<p><学内></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政保健師の役割についての意見交換 ・実習全体のまとめ 						
使用テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト						
参考図書	保健師コース科目で使用したすべての参考図書						
成績評価基準	事前学習10%、実習態度30%、カンファレンスでのディスカッション10% 実習記録・レポート40%、地域診断・活動計画10%						
事前事後学修	自己の実習目標を明確にして行動計画を立て、事前学習をして臨地に臨むこと。実習経験を振り返り、実習目標に照らし合わせて意味づけをしなおし記録する。理解が不足する部分については、どのように学修をすすめるか検討し実習計画を立てて臨む。						

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅱ-b	時間割コード		90515		
		教育課程ナンバー		MNSS03P32		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		実習	2(90)	選択	2前	
担当教員	◎河田 志帆・滝澤 寛子					
授業目的 目標	<p>【目的】 「個人・家族、集団、組織への支援」を深めるとともに、農山村型地域において「公衆衛生看護活動特論・演習」及び「公衆衛生看護管理論」を学び、「複雑化かつ地域特性のある健康問題に対応できる保健師」、「地域の健康課題を解決する方策を探究し、施策の企画、立案、実施および評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護活動が展開できる保健師」を養成する。</p> <p>【目標】 1)農山村型地域における市町保健センターの機能及び所属する行政保健師としての役割を理解し、具体的活動を習得することができる 2)個人・家族、集団、地域の健康の保持増進のための公衆衛生看護活動を理解し、科学的かつ論理的の思考に基づき、理論を活用した公衆衛生看護活動を展開する力が習得できる 3)実習地域の個人・家族、地域の健康課題の解決に向け、地域住民、保健・医療・福祉・教育・産業の関係機関と連携協働しながら、公衆衛生看護活動を展開する力が習得できる 4)個人・家族、集団、地域の健康保持増進のための公衆衛生看護活動の質を保障する機能として統括保健師の役割を理解し、探究することができる 5)個人・家族、集団地域の潜在的な健康課題を明確化し、解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる 6)既習した学習内容と実習施設で得た内容を比較検討することで学究的態度を身につけることができる</p>					
DPとの 対応	1) 智をいっくしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。					
	2) 人をいっくしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいっくしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○	
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 「個人、家族、集団への支援」を深めるとともに、農山村型地域において「公衆衛生看護活動展開論」および「公衆衛生看護管理論」を学び、「複雑化かつ地域特性のある健康問題へ対応できる保健師」「地域の健康課題を解決する方策を探究し、施策の企画、立案、実施及び評価等のPDCAサイクルによる公衆衛生看護管理が展開できる保健師」を育成する。特に、地域特性の応じた公衆衛生看護活動について学び、その実践能力を高める。 1) 臨地実習(富山県朝日町保健センター) 2) 学内での事前・事後学習</p> <p>【授業計画】(共同) <臨地実習での内容> ・オリエンテーション ・保健事業等への参加 ・健康教育の実施 ・統括保健師のシャドウイング ・健康危機管理に関する講話 ・カンファレンス</p> <p><学内> ・行政保健師の役割について意見交換 ・実習全体のまとめ</p>					
使用 テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト					
参考図書	適宜、提示します					
成績評価 基準	事前学習10%、実習態度10%、カンファレンスでのディスカッション10% 実習記録・レポート40%、健康教育の企画・実施・評価30%					
事前事後 学修	実習開始前に、保健師コースで履修した内容を復習しておくこと。 事前課題は事前に提示します。					

授業科目	公衆衛生看護学実習Ⅲ	時間割コード		90516		
		教育課程ナンバー		MNSS03P33		
		授業形態	単位数(時間数)	必修・選択	開講年次	
		実習	3(135)	選択	2前	
担当教員	◎滝澤 寛子・池田 裕子					
授業目的・目標	<p>【目的】 各種保健医療福祉計画に基づく施策化、ネットワーク等々の公衆衛生看護活動展開の技術を用いて政策提言における保健師の役割を学ぶとともに、実習先の保健師と協働して、地域包括ケアシステムを構築し、推進できる能力を修得する。</p> <p>【目標】 1) 行政の保健福祉医療計画に基づく施策化及び保健師の役割、関係機関との連携・協働の実際を通して、地域マネジメントが実践できる能力を修得できる。 2) 実習先市町の既存の地域包括ケアシステムの課題を学び、全世代を通して地域包括ケアシステム構築における保健師の役割を理解、探究することができる。 3) 実習先市町の特性をふまえた新たな地域包括ケアシステムを政策提言し、実習先保健師と協働して実践する能力を修得できる。 4) 個人、家族、集団、地域の潜在的な健康課題を明確化して解決することができるよう公衆衛生を担う専門職である保健師としての倫理観や感受性、責任感を身につけることができる。 5) 最新の知識・技術を自ら学び続ける学究的態度を身につけ、実習と関連づけて特別研究において研究課題を探究できる。</p>					
DPとの対応	1) 智をいっしむ力、すなわち、深く広範な知識、論理的思考力および科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を生み出すために、看護の知を表現し、智に変えることができる。				○	
	2) 人をいっしむ力、すなわち、人々の多様な価値観を理解し、他者を尊重したケアリングコミュニケーションを通して、リーダーシップ・メンバーシップ能力を発揮することができる。				○	
	3) 命をいっしむ力、すなわち、高い倫理観を有し、患者・家族および地域の人々をアドボケートして、健康な時期から疾患罹患、そして終末期まで、地域での暮らしや看取りを見通した高度な看護実践ができる。				○	
	4) 臨地体験を科学的根拠や理論を活用して洞察し、暗黙知から形式知を生み出すことができる。				○	
	5) 病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための研究と高度な実践に結びつけることができる。				○	
	6) 地域包括ケアシステム構築・推進の要となり、さらに、保健行政において健康政策提言およびその政策化ができる。				◎	
授業計画	<p>【授業概要】 各種保健医療福祉計画に基づく施策化、ネットワーク等々の公衆衛生看護活動展開の技術を用いて政策提言における保健師の役割を学ぶとともに、実習先の保健師と協働して、地域包括ケアシステムを構築し、推進できる能力を修得する。 1) 臨地実習 2) 学内での事前準備学習(課題学習等)</p> <p>【授業計画】(共同)</p> <p>【第1週】 ・学内オリエンテーション 準備学習 ・長浜市オリエンテーション ・地域包括ケアシステムの現状を地区踏査 ・関係職種機関からの聞き取り ・長浜市の地域包括ケアシステムの課題抽出</p> <p>【第2週】 ・関係機関及び地域住民からの聞き取り ・中間カンファレンス(実習指導者とカンファレンス) ・地区担当保健師との協働により具体的支援活動を実施する ・地区担当保健師へ具体的支援活動の進捗状況を報告し、今後の支援方向を検討・引継ぎ</p> <p>【第3週】 ・地域包括ケアシステムの課題解決に向けた具体的な支援活動について企画・立案 ・模擬的予算案の作成 ・長浜市において政策提言(健康推進課長) ・学内で実習のまとめ、面接</p>					
使用テキスト	保健師コース科目で使用したすべてのテキスト					
参考図書	保健師コース科目で使用したすべての参考図書					
成績評価基準	事前学習10% 実習態度10% カンファレンスでのディスカッション10% 実習記録・レポート30% 政策提言40%					
事前事後学修	行政に対して地域の課題解決に向けて政策提言するプロセスは地域診断から計画策定までと類似性がある。実習Ⅱa・Ⅱbの地域診断プロセスを復習した上で実習Ⅲに臨む。					